

種別	棟數	延坪數	延一坪棟數當	新築費	坪當單價
木造建物	二、一六	四、三九・九三	二〇・七 ^坪	三、二五、一四八・八〇 ^円	六九・四六 ^円
石造平家建	三	一八・八五	六・六	二、九三・四四	一五八・八〇
同 二階建	一	六・七二	六・七二	一、五四八・八〇	一三〇・四八
煉瓦造平家建	七	一〇七・三四	一五・三三	一五、〇二・九〇	一四一・六三
同 二階建	三	七・七二	二・五九	一五、五三・五〇	二七・一四
鐵骨造平家建	二	一五・八七	五・九四	一〇、八七・六五	九三・四五
鐵筋コンクリート造平家建	一	八・三三	八・三三	二、三三・四四	二六七・一六
同 三階建	一	二六・二五	二六・二五	八、八一・〇〇	三三・四七
同 三階建	一	—	—	三、八一、七七・二五	七・三四
工 作 物	—	—	—	三、四七、〇六・六	七・五
計	二、一〇四	四、七三、〇四	二〇・七	三、四七、〇六・六	七・五

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

前掲補償金及移轉料の總額を、更に種別毎に分類して示せば左の如し。

一 補償審査會に於て決定せる補償金

前掲補償金及移轉料の總額を、更に種別毎に分類して示せば左の如し。
 一 補償審査會に於て決定せる補償金

棟 建 數 物	延 坪 數	補 償 金	内		
			區 分	金 額	
二、二一四	四、七〇八・〇九 ^坪	一、八四〇、七四三・四 ^円	建物移轉料	一、〇五八、〇〇三・七 ^円	二五・三七 ^円
			工作物移轉料	一九二、五八二・七	四・六二
			造作移轉料	一八、九八・三	〇・四五
			動産移轉料	二七、九七七・四	四・一四
			休業補償	二四八、一〇五・四	五・九五
			雜費	一五〇、〇七五・六	三・六〇
計		一、八四〇、七四三・四		四・二三	

第二十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第二十三地區

乙 建物其の他の工作物移轉

二 協議移轉に依る移轉料

棟 數	建 物	延 坪 數	移 轉 料	區 分		金 額	坪 當
				内	外		
三		1,031.10 ^坪	40,793.33 ^円	建物移轉料	計	19,533.28 ^円	18.91 ^円
				工作物移轉料		13,444.33	13.01
				造作移轉料		88.28	0.08
				動産移轉料		2,069.10	2.00
				休業補償		3,026.56	2.93
				雜費		2,130.07	2.05
					計	40,793.33	39.84

三 直轄移轉工事費並其の補償金

區	分	棟數又は件數	延坪數	補償金	工事費
---	---	--------	-----	-----	-----

三 直轄移轉工事費並其の補償金

區分		棟數又は件數	延坪數	補償金	工事費
建物	一棟	一棟	三・三 ^坪	—	九四・〇〇 ^円
工作物	一件	一件	—	—	一九・五〇
計	一棟	一棟	三・三	—	一一三・五〇

四 不許可建物の移轉料

建物	延坪數	移轉料	内訳		坪當
			區分	金額	
建物	—	—	建物移轉料	五、三九五・五〇 ^円	一七・五二 ^円
—	—	—	工作物移轉料	三、五八・〇三	一・一七
—	—	—	雜費	四、一三〇・一〇	一・三六
計	—	—	計	六、〇三三・六三	二〇・〇七

第二十三地區

乙 建物其の他の工作物移轉

五 豫告を受けざる占有者の移轉料

件 數	移 轉 料	區 分		金 額
		内	譯	
三	二,四〇〇・七〇	工作物移轉料 造作移轉料 動產移轉料 休業補償 雜費	計	六九・〇〇 一七・五 八八・六〇 一,〇一一・二 五三・七 二,四一〇・七〇

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は昭和二年一月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し、同三年六月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同年十二月に及びたり。

然るに前記通知書中、住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したるものには夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和四年四月二十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年一月より之が交付を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額百九十四萬三千六百九十一圓四十八錢にして、内國負

擔額六十三萬五千三百八十四圓四十二錢、市負擔額百三十萬八千三百七圓六錢なり。

而して昭和四年八月即ち移轉工事完了迄に、要移轉建物の内抵當權の設定ありたるもの百四十六棟、

るを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したるものには夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和四年四月二十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年一月より之が交付を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額百九十四萬三千六百九十一圓四十八錢にして、内國負

擔額六十三萬五千三百八十四圓四十二錢、市負擔額百三十萬八千三百七圓六錢なり。

而して昭和四年八月即ち移轉工事完了迄に、要移轉建物の内抵當權の設定ありたるもの百四十六棟、此の件數百五十四件ありしが、何れも抵當權者の同意を得て支拂を了したり。

第二十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第五章 移轉實施

第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、昭和二年一月より翌三年十二月迄に完了する豫定にして、之が實施の概要を述べれば、各年共豫定の工程を見る能はず、最終工期たる昭和三年十二月迄に移轉完了の豫定なりし二千二百四棟の内、二千七百七十七棟は豫定期間中に、殘餘の二十七棟は同四年八月迄に、尙建物以外の工作物も同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅ること八箇月にして全部の完了を見たり、之を年別に示せば左の如し。

昭和二年に於ける移轉

昭和二年一月より十二月に至る工事豫定棟數千七十八棟に對し、工事完了せるもの七百六十一棟、此の進捗歩合七割五厘にして、殘餘の三百十七棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

昭和三年に於ける移轉

昭和三年一月より十二月に至る既定の工事豫定棟數千二百二十六棟、之に前年より繰越しに係る三百十七棟を加へたる合計千四百四十三棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの千四百十六棟、此の進捗歩合九割八分一厘にして、殘餘の二十七棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

昭和四年に於ける移轉

前年より繰越したる二十七棟中、四月迄に二十六棟の移轉を完了し、殘餘の一棟は更に豫定に遅るゝ

こと八箇月にして、八月に至り漸く之を完了せり。

今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するとき、命令に依りたるもの二千六百六十七

の千四百十六棟、此の進捗歩合九割八分一厘にして、残餘の二十七棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。昭和四年に於ける移轉

前年より繰越したる二十七棟中、四月迄に二十六棟の移轉を完了し、残餘の一棟は更に豫定に遅るゝ

こと八箇月にして、八月に至り漸く之を完了せり。今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの二千百六十七棟(内代執行を爲したるもの三棟を含む) 協議移轉に依りたるもの三十六棟、直轄工事に依りたるもの一棟なり。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十五年 昭和元年	十一月	五	五	一	一	一	一	一	一
	十二月	一三	一八	五	六	一	一	一	一
昭和二年	一月	七	二五	一〇	一六	一	二	一	二
	二月	三	二八	一	一七	一	三	二	四
	三月	六	三四	一〇	二七	一	四	三	七
	四月	一八	五二	一六	四三	一	五	四	一一
	五月	一四	六六	一六	五九	一	六	五	一六
	六月	三三	九九	二六	八五	一	七	六	二二
	七月	二〇	一二九	二八	一一三	一	八	七	二九
	八月	六	一三五	二七	一四〇	一	九	八	三五

第二十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第二十三地區

乙 建物其他の工作物移轉

昭和三年																		
三	二	一	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十二	十一	十	九
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
			一		二	二	二	二	一	一				五		三	二	三
			二,104	二,103	二,103	二,101	二,199	二,197	二,195	二,194	二,193	二,193	二,193	二,193	二,188	二,188	一,840	一,637
			一		二	二	二	四	一	一	二	一	一	一	一	三	三	六
			二,104	二,103	二,103	二,101	二,199	二,197	二,195	二,194	一,955	一,809	一,662	一,500	一,423	一,266	一,238	795
			一		二	二	二	九	二	二	一	一	一	一	二	二	一	一
			二,104	二,103	二,103	二,101	二,199	二,197	二,077	一,955	一,838	一,696	一,496	一,288	一,077	777	579	579
			四	三	五	二	六	〇	二	〇	一	一	一	一	一	一	一	一
二,104	二,104	二,103	二,103	二,103	二,101	一,967	一,777	一,625	一,477	一,333	一,093	964	854	797	761	571	423	307

一	二	三
月	月	月
一	二	三
四	五	六
七	八	九
一〇	一一	一二
一三	一四	一五
一六	一七	一八
一九	二〇	二一
二二	二三	二四
二五	二六	二七
二八	二九	三〇
三一	三二	三三
三四	三五	三六
三七	三八	三九
四〇	四一	四二
四三	四四	四五
四六	四七	四八
四九	五〇	五一
五二	五三	五四
五五	五六	五七
五八	五九	六〇
六一	六二	六三
六四	六五	六六
六七	六八	六九
七〇	七一	七二
七三	七四	七五
七六	七七	七八
七九	八〇	八一
八二	八三	八四
八五	八六	八七
八八	八九	九〇
九一	九二	九三
九四	九五	九六
九七	九八	九九
一〇〇		

昭和四年				
八	七	六	五	四
月	月	月	月	月
一	二	三	四	五
六	七	八	九	一〇
一一	一二	一三	一四	一五
一六	一七	一八	一九	二〇
二一	二二	二三	二四	二五
二六	二七	二八	二九	三〇
三一	三二	三三	三四	三五
三六	三七	三八	三九	四〇
四一	四二	四三	四四	四五
四六	四七	四八	四九	五〇
五一	五二	五三	五四	五五
五六	五七	五八	五九	六〇
六一	六二	六三	六四	六五
六六	六七	六八	六九	七〇
七一	七二	七三	七四	七五
七六	七七	七八	七九	八〇
八一	八二	八三	八四	八五
八六	八七	八八	八九	九〇
九一	九二	九三	九四	九五
九六	九七	九八	九九	一〇〇

第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を經過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも、容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物九十三棟、工作物六件ありたり。

戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物三棟、工作物三件あり、其の主なる原因は、換地の位置に付不服を懷き移轉せざるもの一人建物一棟、全く自己の怠慢に依るもの一人建物二棟、移轉損害補償金の決定額に不満を懷き移轉せざるもの一人工作物三件なり。

前記換地に不服を懷き移轉せざりし及川某は、曩に兼房町内宅地の換地位置決定に際し、區劃整理委員會に於て原案を修正決議したるに對し、同町民の大多數と共に反對を唱へ原案復活を叫び、期成同盟會を組織し反對演說會を開催、又は陳情を爲したるものにして、他の反對者は漸次自發的に移轉を爲したるも、獨り同人は頑として移轉を肯ぜず依然居住を繼續し、「區劃整理の犠牲を見よ」「復興局移轉課の横暴」「整理委員を膺懲せよ」等の貼紙を爲し最後迄反抗的態度に出でたるを以て、不得已代執行に依り移轉することゝし、家族居住の儘曳方除却を爲したるものなり。

第二十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉
 行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區分	件數	建物棟數	工作物件數					
				數	棟數	件數		
戒告書を發したるもの 戒告後自ら移轉したるもの 代執行を爲したるもの	三	八	三	三	九	三	三	六

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋の必要に迫られたるを以て、昭和二年三月南佐久間町二丁目一番に移動式住宅十四棟、同物置一棟を設置し、同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て、順次増設をなし、工事終了迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帯數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置撤去		期間	住宅		住宅		物置			
	住宅	置物	年	月		住宅	物置	人員	世帯數				
芝區南佐久間町二丁目一番	一四	一	昭和二、三	昭和二、九	自昭和二、三 至同二、九	同	上	三三	二二九	一六〇	一一・四三	三	三・〇〇
同 琴平町二 十番	二〇	三	同二、六	同三、三	自同三、三 至同三、六	同	上	七〇	三・五〇	三五〇	一七・五〇	一〇	三・三三

同 西久保櫻 川町二十番	四	一	同	二、七	同	三、三	自同三、三 至同三、八	一	一三	三・二五	四五	一・二五	一	一
-----------------	---	---	---	-----	---	-----	----------------	---	----	------	----	------	---	---

芝區南佐久間町二丁目一番	一四	一	昭和三、三	昭和三、九	自昭和二、三	同	上	三	二・二九	一六〇	一・四三	三	三・〇〇
同 琴平町二番	二〇	三	同	三、三	自同	同	上	七〇	三・五〇	三五〇	一七・五〇	一〇	三・三三

同 西久保櫻川町二十番	四	一	同	二、七同	三、三	自同	三、八	一三	三・二五	四五	一・二五	一	一・七〇
赤坂區葵町(整理施行地域外)	一六	一〇	同	二、八同	四、五	自同	四、八	九	六・一九	五〇	三・二五	一七	一・七〇
舊東伏見宮邸前道路上	一	一	同	二、九同	二、二	自同	二、九	五	一・〇〇	五〇	一〇・〇〇	一	一・〇〇
芝區西久保櫻川町十三番地先道路上	五	一	同	二、九同	二、二	自同	二、九	一	一・〇〇	一〇・〇〇	一	一・〇〇	一・〇〇
同 西久保巴町二十四番ノ七地先道路上(郵船俱樂部裏)	一	五	同	二、九同	三、二	自昭和三、九	同	一	二・二〇	一	二・二〇	二	二・二〇
同 西久保櫻川町十四番地先道路上(東京市西櫻小学校前)	五	一	同	二、二同	三、二	自昭和三、二	同	三	二・四〇	六〇	三・〇〇	二	二・〇〇
赤坂區葵町(整理施行地域外) 舊東伏見宮邸跡	三	二	同	三、三同	四、二	自同	四、三	二〇	二・二一	六〇〇	一〇・五三	三	二・〇九
計	三三	三三	一	一	一	一	一	三五二	二・九〇	一、七五	二四・五九	三	二・〇九

第四節 宅地造成

本地區は地勢平坦、且道路標高の變更少かりし爲、工事件數少く十三件三十一箇所に過ぎず、而して工事種別は假下水工最も多く七件二十箇所にして、其の他は盛土工三件七箇所、切土工二件三箇所、土留工一件一箇所(間知石積工)なり。

第二十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第二十三地區 乙 建物其の他の工作物移轉

七九六

工事着手は昭和二年四月南佐久間町三丁目十七番の切土工にして、それより順次各種工事を施行し、昭和三年十一月琴平町三丁目三番の切土工を最後とし、十三件の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は三千三百七坪三合五勺なり、其の工事状況を見るに左の如し。

工事種別	工事		數量	金額	直		營		請		譯	
	件數	箇所			件數	箇所	數量	金額	件數	箇所	數量	金額
假下 水	七	二〇	六四・四二 ^間	一、七三・四三 ^円	—	—	—	—	七	二〇	六四・四二 ^間	一、七三・四三 ^円
土留 工	一	一	四・九六 ^{面坪}	二六・〇〇	—	—	—	—	一	一	四・九六 ^{面坪}	二六・〇〇
盛土 工	三	七	八二・八五 ^{立坪}	二九六・八〇	二	三	二・四〇 ^{立坪}	二七・八〇	一	四	七・四五 ^{立坪}	二六九・〇〇
切土 工	二	三	四八・五三 ^{立坪}	二三〇・一〇	一	一	七・五〇 ^{立坪}	四七・六〇	一	二	四・〇三 ^{立坪}	一八二・五〇
計	三	三	—	二、三六・三三	三	四	—	五五・四〇	〇	二七	—	二、一九〇・九三

丙 地下埋設物其の他工作物整理

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一章 概説

本地區に於ける工事數量は本枝管線處理電柱七百二十三本、管線路一萬二千八十七間三、其の他二十五箇所(一地區集計電柱三百七十八本、管線路七千七百五十五間七、應急整理一工事電柱六本、管線路十三間、其の他二十箇所、假本整理電柱三百三十九本、管線路四千三百十八間六、其の他五箇所)及私有管線處理六千三十四件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事千八百八十件、内道路後修を要したるもの千二十六件なり、之を事業別に見るに、水道工作物管線路二千五百二十四間七、其の他二千二十件及十九箇所整理費五萬四百二十一圓七錢、市電工作物電柱五百五十五本、管線路四千二百三十六間六、其の他千六百三十七件及四箇所整理費四萬五百八十二圓五十六錢、東電工作物電柱百六十八本、管線路六十二間、其の他八百四十三件及二箇所整理費一萬五千二百四十一圓三十一錢、瓦斯工作物管線路五千二百六十四間、其の他千五百二十八件整理費四萬八千五百六十六圓二十五錢、電話六件整理費百九十二圓四十錢なり、而して本地區に於ける整理費は十五萬五千三圓五十九錢にして、内私有管線の九萬三千八百二十一圓四十二錢を最高とし、一地區集計の四萬八百五十六圓三十八錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第二十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理
工事一覽

七九八

種別	市水道局		市電氣局		株式會社		株式會社		電話		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一地區集計	管線路 一、七〇九・七	三、三五・九七	管線路 一、五五二・五	六、二九・〇九	管線路 三、〇〇〇	三、三三・三三	管線路 一、二五・五	一、二五・五	管線路 一、二五・五	一、二五・五	管線路 一、二五・五	一、二五・五
電柱	三、三五・九七	三、三五・九七	三、〇〇〇	八、七〇三・八五	三、〇〇〇	三、三三・三三	三、〇〇〇	一、〇六・〇四	一、〇六・〇四	一、〇六・〇四	三、〇〇〇	一、二五・五
應急整理	管線路 一	二九・七〇	管線路 一	三九・三五	管線路 一	三八・〇八	管線路 一	一〇六・〇四	管線路 一	一〇六・〇四	管線路 一	一〇六・〇四
其他	管線路 一	二九・七〇	管線路 一	三九・三五	管線路 一	三八・〇八	管線路 一	一〇六・〇四	管線路 一	一〇六・〇四	管線路 一	一〇六・〇四
假本整理	管線路 八二五・〇	二、三三〇・二二	管線路 四、三九・三五	四、三九・三五	管線路 一	三八・三三	管線路 八二九・五	一、五三三・六九	管線路 一	一、五三三・六九	管線路 一	一、五三三・六九
其他	管線路 一	二、三三〇・二二	管線路 一	三、一七〇	管線路 一	三八・三三	管線路 一	一、五三三・六九	管線路 一	一、五三三・六九	管線路 一	一、五三三・六九
私有管線	管線路 一〇〇	一、一三三・〇九	管線路 一	一、三三・七三	管線路 一	五九・〇二	管線路 一	三、八〇六・七三	管線路 一	三、八〇六・七三	管線路 一	三、八〇六・七三
道路後修	管線路 一〇〇	一、一三三・〇九	管線路 一	一、三三・七三	管線路 一	五九・〇二	管線路 一	三、八〇六・七三	管線路 一	三、八〇六・七三	管線路 一	三、八〇六・七三
合計	二、〇一〇	二、〇一〇	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。
二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

合計	二、〇一〇	一、九〇〇	四、三三〇	一、三三〇	八三〇	一、四八〇	一、二四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
電柱	九本	九本	九本	九本	九本	九本	九本	九本	九本
管線	二、〇〇〇	一、九〇〇	四、三三〇	一、三三〇	八三〇	一、四八〇	一、二四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
其他	二、〇一〇	一、九〇〇	四、三三〇	一、三三〇	八三〇	一、四八〇	一、二四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。
 二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	昭和十五年		昭和十二年		昭和十三年		昭和十四年		昭和十五年		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
一地區集計												
電柱			九本	三、一〇〇・四四	二六本	六、四九二・九	四本	一、四八八・二六	一九五・五	五〇六・二八	三七八本	一一、〇四一・一九
管線			二、〇四八・六	七、三三七・四三	二、〇四九・〇三	五、七九三・二四	二、〇四九・〇三	五、七九三・二四	二、〇四九・〇三	五、七九三・二四	二、〇四九・〇三	二九、八一五・一九
計				一〇、四四七・八六		一二、四八四・一三		三、五三二・五〇		五、〇六二・五二		四〇、八五七・一八
應急整理												
電柱												
管線												
計												
假本整理												
電柱												
管線												
計												
其他												
計												
私有管線												
道路後修												
合計												
進捗歩合%												

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

國市負擔區分

種別	水道		市電		東電		瓦斯	斯電	話	計
	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔				
一地區集計	四、一〇〇・五	四、五九五・二	八三三・元	一、八五〇・五	三、一三六・九	六、九八六・六	—	—	二二、六六五・四	
	九、二五・九	一〇、二七・八	—	二、六八一・九	一〇、一三五・五	—	—	—	二八、一九〇・九	
計	一三、三三・九	一四、八三・四	—	—	—	—	—	—	四〇、八五六・三	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
應急整理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
假本整理	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
事業者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
私管	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
市負擔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

線 私 有 管 人 拂 計	現金補償(個)	
	國負擔	市負擔
一、二二・九三	一、九五・八四	三、〇三・九七
六〇・二一〇	二、六〇・五二	二、八三・六一
一、五九・四四	一、五七・五八	三、一七・〇二
一、一五・六八	一、六五・八一	二、七六・四九
一五八・四〇	三〇〇・〇〇	一五二・四〇
四、五九・五五	七、四五・八四	二、九八・二九

合 計	道 路 後 修	
	市負擔	國負擔
五〇、四三・〇七	一、二三・〇九	一〇、九元・三元
五〇、五八・二五	一、二七・三三	二、六三・八二
一五、二四・三三	五、九〇・〇一	三、五三・二〇
四八、五六・二五	三、八六・七二	三、三三・八二
一五二・四〇	—	二、八〇・一〇
一五五、〇三・五九	六、七五・九五	一八、三〇・一六

年度別工事費支拂進捗状況

種 別	進 捗 率 %				
	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	支拂未済
一地區集計	—	一五、九二・八四	一五、三〇・七七	九、七三・七七	—
應急整理一工事	—	五〇・四五	一〇八・八二	—	—
假本整理	一〇・六二	一、二三・八七	六、七五・四七	五、〇三・六二	—
私有管線	二、六六・〇三	二四、三七・七九	六五、三六・七九	一、二八・八四	一五〇・九
道路後修	—	一、四〇・〇六	四、三九・一四	八七・二五	二八・五〇
計	二、六三・六四	四三、三三・〇〇	九二、九八・九九	一六、八六・四八	一八三・四八
進捗歩合%	—	二六	五九	二一	—
計	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱三百八十一本、管線路八千八百十四間六及之に關係せる各種工作物にして、此の整理費四萬七千七百三十八圓六十四錢なり、而して假契約は水道工作物に關し大正十五年十二月十四日締結したるを、工事は瓦斯工作物に關し昭和二年四月十五日著手したるを、本契約は水道工作物に關し同三年一月六日契約したるを各々最初とし、それより逐次各事業者に契約を締結し工事を施行したり、各事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正 五、三、一四	昭和 三、一、六	昭和 二、五、九	昭和 四、三、二六
市電氣局	昭和 二、三、三〇	昭和 三、五、三	昭和 二、四、三	昭和 五、三、七
東京電燈株式會社	昭和 二、九、一六	昭和 三、五、九	昭和 二、一〇、二〇	昭和 四、三、二六
東京瓦斯株式會社	昭和 二、四、一六	昭和 三、六、二	昭和 二、四、一五	昭和 五、四、二五

工事施行中設計變更を要したる箇所五十一件ありたる結果、數量に於て減少を爲したる爲、工事費に於て六千八百八十二圓二十六錢の減額を爲せり、其の設計變更の狀況を見るに左の如し。

種別	電柱		管線		計
	數量	金額	數量	金額	

於て六千八百八十二圓二十六錢の減額を爲せり、其の設計變更の状況を見るに左の如し。

種別	電柱		管線		計
	數量	金額	數量	金額	
當初契約	三六	一、五四・二七	八、八四・六	三、一九・七	四七、七六・四
設計變更後(精算)	三七	二、〇四・二九	七、七五・七	二、八五・一九	四〇、八五・三六
差引増△減	△一	△五〇・〇八	△一、〇五八・九	△六、三二・一八	△六、八二・三六

尙工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電柱		管線		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額		
昭和二年	九本	三、一〇〇・四	二、〇八・六	七、三三・四	一〇、四五七・八六	二五
昭和三年	二三	六、四九二・四九	二、九三三・三	一一、〇四九・〇二	一七、五四一・五〇	四三
昭和四年	四	一、四八・六	二、五七九・三	一〇、九〇二・四八	一二、三五〇・七四	三
昭和五年	一	—	一九五・五	五〇六・二八	五〇六・二八	一
計	三六	一一、〇四一・一九	七、七五・七	二九、八二五・一九	四〇、八五六・三六	一〇〇

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理
支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭 和 三 年	四、九三、九七 ^円	一〇、九七、八七 ^円	一五、九二、八四 ^円	元
昭 和 四 年	四、七八、四四	一〇、五〇、三三	一五、二〇、七七	七
昭 和 五 年	三、〇四、〇六	六、七〇、七二	九、七四、七八	四
計	一二、〇六、四七	二八、一九、九二	四〇、八六、三九	一〇〇

第一 水 道

一 契 約 大正十五年十二月十四日管線路千七百十五間一及關係工作物に對し、整理費一萬三千六百二十一圓四十九錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年一月六日之が本契約を締結したり、右整理費の國・市負擔區分は國四千二百二十二圓六十六錢、市九千三百九十八圓八十三錢なり。

二 工 事 大正十五年十二月十四日假契約成立せるを以て翌昭和二年四月六日最初の工事要求を爲し、同年五月十九日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二件の設計變更を爲したる結果、新設千五百四十三間三、撤去八十九間六、埋殺七十六間八計千七百九間七となり、管線路に於て五間四の減少を爲したり、而して昭和四年十二月二十八日を以て總工事を完了し同日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度 管 線 路 步 合 %

検査を了したり、其の進捗状況を示せば左の如し。

年 度	管 線		歩 合 %
	数 量	金 額	
昭 和 二 年	二六四・三 ^間	二、二六・二五 ^円	六
昭 和 三 年	六〇〇・八	四、六九・〇九	三
昭 和 四 年	八四・六	六、四八〇・七三	四
計	一、七〇九・七	一三、三三三・九七	一〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額は一萬三千六百二十一圓四十九錢、内國負擔四千二百二十二圓六十六錢、市負擔九千三百九十八圓八十三錢にして、第一回前渡金は昭和三年四月二十一日、第二回前渡金は同四年十二月十七日支拂手續を爲し、昭和五年三月十二日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬三千二百二十五圓九十七錢となり、契約金額に比し三百九十五圓五十二錢の減額を見たり、之を工種別に見るに、新設千四百五十八間七金額一萬千五百五十九圓二十八錢、移設八十九間六金額千五百五十六圓六十四錢、その他金額五百十圓五錢にして國市負擔區分は國四千百圓五錢、市九千二百二十五圓九十二錢なり、其の精算状況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負 擔 區 分	潰 地 面 積	比 率 %	契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減
國 負 擔 幹 線 街 路 費	三、七二一・〇〇 ^坪	三	四、三三三・六六 ^円	四、一〇〇・〇五 ^円	△ 二三三・六一 ^円

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

補助線街路費	土地整理費	小公園費	計	合
二、〇一六・〇〇	四、四三二・九一	八七六・八〇	七、一三七・七一	一〇、四〇三・七一
一九	四	九	九	一〇〇
二、五八八・〇八	五、五八四・八一	一、二五・九四	九、三九八・八三	一三、六三二・四九
二、五二・九三	五、四三・六五	一、九〇・三三	九、二五・九三	一三、三五・九七
△	△	△	△	△
七五・一五	一六二・一六	三五・六〇	二七三・九一	三九五・五三

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三、〇八二・九七	二、七〇〇・八九	△ 三九二・〇八
過不足分（一致せざる部分）	一〇、〇四・八七	九、九五・〇三	△ 四九八・八四
累計する分	一四五・八四	一七九・六五	△ 三三・八一
小計	三、二三三・六六	二、八九五・五五	△ 三五八・一一
附帯工事分（假工事を含む）	三六七・八一	三三〇・四〇	△ 三七・四一
補償額計	三、六一二・四九	三、三二五・九七	△ 三九五・五二

第二電氣

(イ) 市電

一 契約 昭和二年三月三十日電柱三百四十五本、地中線千四百七十七間五及關係工作物に對し整理費一萬五千三百圓五十四錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に翌三年五月三十一日之が本契約

を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國四千七百四十三圓十七錢、市一萬五百五十七圓三十七錢なり。

一 契約 昭和二年三月三十日電柱三百四十五本、地中線千四百七十七間五及關係工作物に對し整理費一萬五千三百圓五十四錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に翌三年五月三十一日之が本契約

を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國四千七百四十三圓十七錢、市一萬五百五十七圓三十七錢なり。

二 工事 昭和二年三月三十日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、同年四月二十二日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中十五件の設計變更を爲したる結果電柱新設百五十八本、撤去百八十二本計三百四十本、地中線新設七百四十九間二、撤去八百三間三計千五百五十二間五となり、電柱に於て五本減少し、地中線に於ては七十五間の増加を爲したり、而して昭和五年三月十七日を以て總工事を完了し、同年十一月二十日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	八〇本	二,〇〇一・八九	五七三・〇	二,二六四・〇六	四,二六五・九五	二九
昭 和 三 年	三三四	五,七四四・五四	七四・五	二,八七五・九七	八,六二〇・五一	五
昭 和 四 年	三	九七・四二	二五・〇	九七九・〇六	一,〇七六・四八	一三
計	三四〇	八,七二三・八五	一五三・五	六,一四三・〇九	一四,八七六・九四	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額一萬五千三百圓五十四錢、内國負擔四千七百四十三圓十七錢市負擔一萬五百五十七圓三十七錢にして、第一回前渡金は昭和三年八月一日支拂手續を爲し、同五年十月二十二日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬四千八百二十二圓九十四錢となり、契約金額に比し四百七十七圓六十錢の減額を見たり、之を工種別に見るに、新設地中線十七間五金額千六百六十二圓四十五錢、移設電柱百五十八本、地中線七百三十一間七金額一萬三千二十七圓九十二錢、其他金額六百三十二圓五十七錢にし

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

て國市負擔區分は國四千五百九十五圓十一錢、市一萬二百二十七圓八十三錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	三、二七一.〇〇 ^坪	三	四、七四三.一七 ^円	四、五五五.一一 ^円	△ 一八八.〇六
補助線街路費	二、〇一六.〇〇	一九	二、九〇七.一〇	二、八六六.六六	△ 九〇.七四
土地整理費	四、二四二.九一	四二	六、二七三.三二	六、〇七七.四二	△ 一五五.八二
市負擔 小公園費	八七八.八〇	九	一、三七七.〇五	一、三三四.〇六	△ 四三.九九
計	六、一三七.七一	充	一〇、五七七.七七	一〇、三三七.八三	△ 三三九.九四
合計	一〇、四〇三.七一	一〇〇	一五、三〇〇.四四	一四、八三三.四四	△ 四七七.〇〇

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	一三、五一二.二四 ^円	一三、〇七.九二 ^円	△ 四八三.三二
過不足分（一致せざる部分）	一、〇六〇.七一	一、一六二.四五	△ 一〇一.七四
小計	一四、五七二.九五	一四、一九〇.三七	△ 三八一.五八
附帶工事分（假工事を含む）	七六.五九	六三三.五七	△ 九六.〇二
補償額計	一五、三〇〇.四四	一四、八三三.四四	△ 四七七.〇〇

(口) 東電

昭和二年九月十六日電柱三十六本、地中線六十二間及關係工作物に對し、整理費二千

小計	一四、五七・五	一四、九〇・三	△	三六・五
附帯工事分(假工事を含む)	七六・五	六三・五	△	一三・〇
補償額計	一四、三〇・〇	一四、八三・三	△	五三・〇

(ロ) 東電

一 契約 昭和二年九月十六日電柱三十六本、地中線六十二間及關係工作物に對し、整理費二千七百四十一圓を以て整理に關する假契約を爲し、更に同三年五月十九日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國八百四十九圓七十一錢、市千八百九十一圓二十九錢なり。

二 工事 昭和二年九月十六日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、同年十月十日工事に著手し、それより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中三件の設計變更を爲したる結果、電柱新設十九本、撤去十九本計三十八本、地中線新設二十七間、撤去三十五間計六十二間となり、電柱に於て二本の増加を爲したり、而して昭和四年十二月二十六日を以て總工事を完了し、同五年一月二十八日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭和二年	一八本	一、〇九六・五	六二・〇間	三、四〇・七	一、四三三・三	五
昭和三年	三	七四七・九	—	—	七四七・九	二
昭和四年	八	四九〇・八	—	—	四九〇・八	一
計	二六	二、三三七・四	六二・〇	三、四〇・七	二、六二九・一	一〇

三 精算 本地區に於ける契約金額は二千七百四十一圓、内國負擔八百四十九圓七十一錢、市負擔千八百九十一圓二十九錢にして、第一回前渡金は昭和三年八月六日支拂手續を爲し、同五年三月二十七日精算を完了したり。

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

設計變更の結果精算金額二千六百八十一圓九十一錢となり、契約金額に比し五十九圓九錢の減額を見たり、之を工種別に見るに、新設金額百三十二圓八十四錢、移設電柱十九本、地中線二十七間金額二千四百十七圓八十一錢、其他金額百三十一圓二十六錢にして國市負擔區分は國八百三十一圓三十九錢、市千八百五十圓五十二錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
幹線街路費	三、七、〇〇 ^坪	三	八四九・七 ^円	八三・五 ^円	△ 一八・三 ^円
補助線街路費	二、〇一・〇〇	九	五〇・七 ^円	五〇・五 ^円	△ 二・二 ^円
土地整理費	四、四、二・九 ^一	四	一、三三・八 ^一	一、〇九・五 ^五	△ 二四・二 ^三
小公園費	八七・八〇	九	二四・六 ^九	二四・七 ^三	△ 五・三 ^三
計	七、一七・七 ^一	充	一、八九・三 ^元	一、八〇・五 ^三	△ 八・八 ^円
合	一〇、四〇・七 ^一	一〇〇	二、七四・〇 ^〇	二、六二・九 ^二	△ 一五・〇 ^八

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	二、三九・七 ^三	二、四七・八 ^一	△ 八・〇 ^九
過不足分（一致せざる部分）	一七・三 ^一	一三・八 ^四	△ 四五・四 ^七

小計	附帶工事分（假工事を含む）
二、五〇八・〇三	二、五五〇・六五
一三三・九七	一三二・二六
△	△
四三・六三	四一・七一

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	二、三九・七三	二、四七・八一	八・〇九
過不足分(一致せざる部分)	一六・三三	一三・八四	四・四七

小計	附帶工事分(假工事を含む)	補償額計
二、五〇・〇三	一三二・九七	二、四一・〇〇
二、五〇・〇三	一三二・二六	二、六二・九二
△	△	△
四三・六三	一〇一・七一	五九・〇九

第三 瓦 斯

一 契約 昭和二年四月六日管線路五千五百六十間及關係工作物に對し、整理費一萬六千七十五圓六十一錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に同三年六月十一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國四千九百八十三圓四十四錢、市一萬一千九十二圓十七錢なり。

二 工事 昭和二年四月六日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、同月十五日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中三十一件の設計變更を爲したる結果、新設千七百四十八間五、撤去六百十間、埋殺二千七十三間計四千四百三十一間五となり、管線路に於て千二百二十八間五の減少を爲したり、而して昭和五年四月二十五日を以て總工事を完了し、同年八月十五日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線 路		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 二 年	一、二九・三	二、六三・六四	二六
昭 和 三 年	一、六〇・〇	三、五四・九五	三五
昭 和 四 年	一、四七・七	三、四二・六九	三四

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和五年	一九五・五	五〇六・六
計	四、四三・五	一〇、一五・五
		100

三 精算 本地區に於ける契約金額は一萬六千七十五圓六十一錢、内國負擔四千九百八十三圓四十四錢、市負擔一萬千九百九十二圓十七錢にして、第一回前渡金は昭和三年八月六日、第二回前渡金は同四年四月六日支拂手續を爲し、同五年十月十四日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬百二十五圓五十六錢となり、契約金額に比し五千九百五十圓五錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千六十四間八金額四千八百八十八圓四十二錢、移設六十間金額三千六百五十八圓一錢、撤去千八間二金額七百四十四圓五錢、其他金額千五百三十五圓八錢にして國市負擔區分は國三千百三十八圓九十二錢、市六千九百八十六圓六十四錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	三、一七・〇〇	三	四、九三・四四	三、二八・九二	△ 一、八四・五二
補助線街路費	二、〇一・〇〇	一九	三、〇五・三七	一、九三・八六	△ 一、一〇・五一
土地整理費	四、四二・九一	四二	六、五九・〇〇	四、一五・四八	△ 二、四三・五二
市負擔 小公園費	八七・八〇	九	一、四六・八〇	九一・三〇	△ 五五・五〇
計	七、一七・七一	六九	一、〇九・一七	六、九六・六四	△ 四、一〇・五三
合 計	一〇、〇〇・七二	一〇〇	一、〇九・一七	一〇、一三・四八	△ 五、二四・三一

補償金對照表

工 種	契約金額	精算金額	差引増△減
-----	------	------	-------

合 計	市 負 擔		契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減
	土 地 整 理 費	小 公 園 費			
10,809.71	4,242.91	878.80	100	17,048.61	△ 5,240.04
7,277.71	9	1,446.80	9	10,113.88	△ 4,101.33
10,809.71	4,242.91	1,493.60	9	17,048.61	△ 2,439.52

補償金對照表

工 種	契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	二,六五二.六五	七,八四六.四三	△ 三,八〇六.四二
過 不 足 分 (一致せざる部分)	一,三三五.〇五	七四四.〇五	△ 五九一.〇〇
累 計	一,六六六.三〇	一,三〇〇.五五	△ 三五五.七五
小 計	四,〇一七.九〇	九,九〇一.〇三	△ 四,七三三.一七
附 帶 工 事 分 (假工事を含む)	一,四六一.四一	一三四.五三	△ 一,三六六.八八
補 償 額 計	一,六〇七.五二	一〇,一二五.五六	△ 五,九五〇.〇五

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數十三件整理費七百十三圓二十七錢にして、昭和二年十月二十四日市水道局關係工作物の整理に著手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見る時は、市水道局七件金額二百七十九圓七十錢、市電氣局二件金額百三十九圓三十五錢、東京電燈株式會社三件金額百八十八圓十八錢、東京瓦斯株式會社一件金額百六圓四錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

工事進捗状況

年 度	切 廻 其 他	計	歩 合 %
昭 和 二 年		五・九 ^円	一 九
昭 和 三 年	ヶ所 一 三	二七・七	八
計	一 九	二七・七	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 三 年	二三・七 ^円	八 〇
昭 和 四 年	五・三	二 〇
計	二九・〇	一〇〇

第二 電 氣

(イ) 市 電

工事は昭和三年九月西久保明舟町十九番地先に於ける地中電纜切廻工事及同年十月施行せる南佐久間町二丁目十番地先に於ける電柱移設工事の二件にして、之が整理費は百三十九圓三十五錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

電 路	柱 管 線	計	歩 合 %

工事は昭和三年九月西久保明舟町十九番地先に於ける地中電纜切廻工事及同年十月施行せる南佐久間町二丁目十番地先に於ける電柱移設工事の二件にして、之が整理費は百三十九圓三十五錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	二 本	四・一五 ^円	一〇・〇 ^間	九五・一〇 ^円	一三九・三五 ^円	一〇〇
計	二	四・一五	一〇・〇	九五・一〇	一三九・三五	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 三 年	三九・三五 ^円	一〇〇
計	三九・三五	一〇〇

(ロ) 東 電

工事は昭和三年八月南佐久間町一丁目三番地先に於ける電柱移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同四年四月櫻田鍛冶町四番地先に於ける電柱移設工事を最終とし三件の工事を完了せり、而して之に要したる整理費は百八十八圓十八錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第二十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

工事進捗状況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	二 本	三 五 〇 円	一 ヶ 所	三 六 〇 円	七 三 〇 円	七 三 〇 元
昭 和 四 年	二	一 四 六 一	一	一	二 四 六 二	二 四 六 元
計	四	一 五 〇 一 〇	一	三 六 〇 円	一 八 六 一 〇	一 〇 〇

支拂状況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %
	金 額	歩 合 %	金 額	歩 合 %		
昭 和 三 年	一 〇 〇 〇 〇 円	一 〇 〇	三 五 〇 〇 円	三 五 〇	三 五 〇 〇 円	三 五 〇 元
昭 和 四 年	三 〇 〇 〇 〇 円	三 〇 〇	一 二 四 六 一 円	一 二 四 六 一	一 五 四 六 一 円	一 五 四 六 元
計	四 〇 〇 〇 〇 円	四 〇 〇	一 五 四 六 一 円	一 五 四 六 一	一 八 六 一 〇 円	一 〇 〇

第三 瓦 斯

工事は昭和三年十月西久保明舟町十九番地先に於ける下水工事支障に依る瓦斯管移設工事一件にして、之が整理費は百六圓四錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	管 線 路		計	歩 合 %
	數 量	金 額		
昭 和 三 年	一	一 〇 〇 〇 〇 円	一 〇 〇 〇 〇 円	一 〇 〇
昭 和 四 年	一	一 〇 〇 〇 〇 円	一 〇 〇 〇 〇 円	一 〇 〇
計	二	二 〇 〇 〇 〇 円	二 〇 〇 〇 〇 円	二 〇 〇

之が整理費は百六圓四錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線 路		計	歩 合 %
	數 量	金 額		
昭 和 三 年	三・〇 間	一〇六・〇圓	一〇六・〇圓	100
計	三・〇	一〇六・〇圓	一〇六・〇圓	100

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
計	一〇六・〇圓	100

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は、件數二十九件整理費一萬二千八百九十六圓五十七錢、全部市負擔にして、昭和二年五月十日東京電燈株式會社關係工作物の整理に着手したるを最初とし、それより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局一件金額二千二百三十圓十一錢、市電氣局十五件金額六千八十一圓四十八錢、東京電燈株式會社十二件金額三千三十一圓二十九錢、東京瓦斯株式會社一件金額千五百五十三圓六十九錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事種別

種別	交通支障			其他			合計		
	電柱	管線路	其他	電柱	管線路	其他	電柱	管線路	其他
水道	數量								
	金額								
市電	數量	二三本	二六・四間		二、五七・七間	ケ所		二、三本	二、六七・四間
	金額	一、九〇・一三	一、一四〇・六五		二、九九九・〇〇	三・七〇		三、〇三〇・七〇	一、九〇・一三
東電	數量	二四本	ケ所		二本			二六本	ケ所
	金額	二、九七五・三	三・五		一九・七三			二、九四四・九四	三・五
瓦	數量								
	金額								
斯	數量								
	金額								
計	數量	三三本	二六・四間	ケ所	二本	ケ所	三三本	二、三八・六間	ケ所
	金額	四、八八五・三四	一、一四〇・六五	三・五	六、〇六二・四	一九・七三	六、七八二・八〇	七、九三三・四五	三、八九六・五

工事進捗状況

電柱	管線路	其他	計	歩合%

工事進捗状況

年度	電柱		管線		其他		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭和二年	六本	三〇・七〇 ^円	六四六・〇	八三・〇八 ^円	二 ^{ヶ所}	一〇・六 ^円	一、二三・元	九
昭和三年	—	—	二七九・二	一、〇七・七 ^二	—	三・〇九	一、〇九一・八一	八
昭和四年	三三	四、六八四・七	三、三三三・四	五、九七〇・五	一	三・五	二〇、六九・七	八
計	三九	四、九五〇・七	四、三二八・六	七、九三三・四	五	六・〇五	二二、八九六・七	一〇〇

支拂状況

年度	市	負擔	歩	合	%
昭和二年		一〇・六 ^円			一
昭和三年		一、二三・八七			八
昭和四年		六、七五九・四			五
計		五、〇〇二・六			一〇〇

第二十三地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一 水道

工事は昭和四年五月琴平町十三番地先に於ける水道鐵管移設工事一件にして、之が整理費は二千二百三十圓十一錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線 路		計	歩 合 %
	數 量	金 額		
昭和四年	八五・〇 ^間	二、一三〇・一一 ^円	二、一三〇・一一 ^円	100
計	八五・〇	二、一三〇・一一	二、一三〇・一一	100

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭和五年	二、一三〇・一一 ^円	100
計	二、一三〇・一一	100

第二電氣

(イ) 市電

工事は昭和二年八月南佐久間町一丁目一番地先に於ける支線柱移設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同五年一月西久保櫻川町一番地先より同町二十一番地先に至る地中電纜移設工事を最終とし、十五件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は六千八十一圓四十八錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
昭和二年	本	円	六四六・〇	八三二・〇八	二ヶ所	一〇・六一	八三二・六九	一五
昭和三年	一	一	二七九・二	一、〇〇〇・七三	二	二二・〇九	一、〇九一・八一	一八
昭和四年	二三	一、九二〇・三三	一、七四八・九	二、一八六・八五	一	一	四、〇九六・九六	七
計	二三	一、九二〇・三三	二、九六四・一	四、二一九・六三	四	三二・七一	六、〇八二・四八	一〇〇

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

支拂狀況

年 度	市 負 擔	步 合 %
昭 和 二 年	一〇・六 ^円	一
昭 和 三 年	九三・七	一四
昭 和 四 年	三、四八・八	六
昭 和 五 年	一、三八・三	二〇
計	六〇八・四	一〇〇

(ロ) 東 電

工事は昭和二年五月内幸町一丁目十番地先に於ける電柱移設並新設工事を最初とし、それより逐次各種工事を施行し、同四年十一月櫻田太左衛門町三番地先より櫻田備前町十八番地先に於ける電柱移設工事を最終とし、十二件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は三千三十一圓二十九銭なり其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱	其 他	計	步 合 %
數量	額	數量	額	
金	額	金	額	

其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額		
昭 和 二 年	六本	二、九〇・七〇	一ヶ所	一	二、九〇・七〇	七
昭 和 四 年	二〇	二、七四・二四	一	一	二、八〇・五	三
計	二六	二、九四・九四	一	一	三、〇一・二九	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	市 負	擔	
昭 和 三 年	二、八〇・五	二、八〇・五	七
昭 和 四 年	三、〇一・二九	三、〇一・二九	一〇〇
計			

第三 瓦 斯

工事は昭和四年九月南佐久間町二丁目十八番地先より琴平町十三番地先に至る瓦斯鐵管移設工事一件にして、之が整理費は千五百五十三圓六十九錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

個人拂		補設費		市負擔		國負擔	
計	市負擔	計	市負擔	計	市負擔	計	市負擔
三	三	三	三	三	三	三	三
七〇・九四	七〇・九四	七〇・九四	七〇・九四	七〇・九四	七〇・九四	七〇・九四	七〇・九四
一五八・四〇	一五八・四〇	一五八・四〇	一五八・四〇	一五八・四〇	一五八・四〇	一五八・四〇	一五八・四〇
一〇四・九四	一〇四・九四	一〇四・九四	一〇四・九四	一〇四・九四	一〇四・九四	一〇四・九四	一〇四・九四
三三〇・四〇	三三〇・四〇	三三〇・四〇	三三〇・四〇	三三〇・四〇	三三〇・四〇	三三〇・四〇	三三〇・四〇

合		計		市負擔		國負擔	
計	市負擔	計	市負擔	計	市負擔	計	市負擔
二,〇一〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇一〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇一〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇一〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

備考 合計件数欄中には再設費補償件数を含まず。

第一 水道

大正十五年十二月十四日より工事施行に關する申請書の受付を開始し、昭和四年四月十日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十五年十二月二十日之に著手し、建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し昭和四年十一月二十日を以て全工事を完了したり、その申請書並整理件数は二千二十件金額三萬三千五百五十二圓二十錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの二百六件金額三千三十九圓七十七錢ありたり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年度	工事狀況			支拂狀況		
	件数	金額	歩合%	件数	金額	歩合%
大正十五年	八	一三四・二二	一	—	—	—
昭和元年	六九一	二、四七四・八五	三	—	—	—
昭和二年	一、二九七	二、五四〇・五一	六	—	—	—
昭和三年	—	—	—	—	—	—
昭和四年	—	—	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—	—	—

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和二年	五〇	六,二五九・七	四	二六六・八〇	五	六六・〇八	八〇	八九二・八八	五
昭和三年	一〇五一	二,七四九・六六	六	一,四六四・六七	三〇八	三,四四三・四四	四四一	四,九〇八・一一	二六
昭和四年	二〇	三九・六二	一	三,六七五・二九	七三	八,六四二・二四	一,一〇五	二,三三七・四三	六七

昭和五年	一	一	一	三六・二三	八	八九・四四	二	二七・五	一
未済	一	一	一	五五・六	一	一	一	五五・六	一
計	一,六三七	一八,三〇一・六六	一〇〇	五,五〇〇・五	一,一四五	二,八〇一・〇	一,六三七	一八,三〇一・六六	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

(口) 東 電

大正十五年十二月十六日より工事施行に關する申請書の受付を開始し、昭和四年二月十二日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十五年十二月二十二日之に著手し、建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し、昭和四年十一月二十五日を以て全工事を完了したり、その申請書並整理件数は八百四十三件金額八千八百圓九十二錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの二百六十三件金額三千百十七圓二錢ありたり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況			支 拂 状 況			合 計	歩 合 %
	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔	市 負 擔	金 額		
大正十五年	四	三三・二〇	一	—	—	—	—	—
昭和元年	二六八	三,〇〇九・九二	三	四九・七九	八五	八八七・四〇	二六	一,三三七・一九
昭和二年	五四二	五,六五〇・一九	六	八六九・九	一六四	一,七二二・二六	二四八	二,五八二・二五
昭和三年	一〇	一〇五・六一	一	一,六一八・六六	三〇五	三,一八四・二〇	四六一	四,八〇二・八六

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和二年	五三	二、七七一	四	一	二、七七一	一	二、七七一	一	二、七七一	一
昭和三年	九二	二、六九四	四	三九	二、六九四	三二	六、七七〇	四〇	九、四八六	二
昭和四年	一八	三九五・六九	一	三九	六、八七七一	七九	一六、五八二	一、〇八八	一三、四五八・〇七	七

昭和五年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
未済	一、五八	三、九四・四	一〇〇	△	九、六七・四	一、〇〇三	三、三〇六・四	一、五八	三、九四・四	一〇〇
計	一、五八	三、九四・四	一〇〇	△	九、六七・四	一、〇〇三	三、三〇六・四	一、五八	三、九四・四	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

第四 電話

加入電話にして二回移設を要し移設費を個人に補償したるもの一件金額三十四圓、又私設電話にして移設費を個人に補償したるもの五件金額百五十八圓四十錢なり、其の工事並補償状況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況			支 拂 状 況			合 計
	件 数	金 額	歩 合 %	件 数	金 額	件 数	
昭和二年	二	六三・二〇	三	二	六三・二〇	二	六三・二〇
昭和三年	二	八・二〇	四	一	四・〇〇	二	八・二〇
昭和四年	二	四一・〇〇	三	一	四一・〇〇	二	四一・〇〇
計	六	一五二・四〇	一〇〇	五	一五八・四〇	六	一五二・四〇

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は昭和二年二月一日開始し、同三年六月三十日閉止の豫定なりしが、建物移轉並道路工事の關係により同四年九月十五日之を閉止せり、而して翌五年一月三十一日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり、本地區に於ける占用許可又は承認は昭和二年二月十四日市水道局並市土木局下水課に一括承認を爲し、それより順次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して分割許可又は承認は同年四月三日市水道局に承認せるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲し、昭和四年九月十日市電氣局に承認せるを最終とし、要求工事千八百八十件、非要求工事千四百四十八件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業業者	一括占用許可承認年月日	分割許可		要求工事件数	非要求工事件数	計
		最初年月日	最終年月日			
市水道局	昭和二、二、二四	昭和二、四、三	昭和四、九、四	二〇五	一七一	三二六
市土木局下水課	昭和二、二、二四	昭和三、六、九	昭和四、九、九	一	一七	一七
市電氣局	昭和二、三、二六	昭和二、一〇、二九	昭和四、九、一〇	三三	一四三	一八一
東京電燈株式會社	昭和二、二、二三	昭和二、七、三〇	昭和四、九、五	一六	三	一九
東京瓦斯株式會社	昭和二、二、二〇	昭和二、五、二五	昭和四、八、二	九七	七二	一六九

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は千八百八十件其の延長九千三百三十三間〇四、掘鑿面坪二千七百四十一坪八

東京電燈株式會社	昭和二、二、三	昭和二、七、三〇	昭和四、九、五	二六	三六
東京瓦斯株式會社	昭和二、二、二〇	昭和二、五、二五	昭和四、八、二	九七	六二
					一、七〇三

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は千八百八十件其の延長九千三百三十三間〇四、掘鑿面坪二千七百四十一坪八六にして、之を事業者別に見るに、市水道局二百五件其の延長二千九百七十八間九九、掘鑿面坪八百六十八坪八四、市電氣局二十二件其の延長九百三十七間〇六、掘鑿面坪三百三十五坪九四、東京電燈株式會社二十六件其の延長四百八十三間七二、掘鑿面坪二百二坪九九、東京瓦斯株式會社九百二十七件其の延長四千九百三十三間二七、掘鑿面坪千三百三十四坪〇九なり、尙之を類別すれば大掘鑿八十四件其の延長七千六百六十一間五四、掘鑿面坪二千二百六十坪五二、小掘鑿千九百六十六件其の延長千六百七十一間五、掘鑿面坪四百八十一坪三四なり、其の許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年 度	大 掘 鑿		小 掘 鑿		計	
	件數	延長 掘鑿面坪	件數	延長 掘鑿面坪	件數	延長 掘鑿面坪
昭和二年	市水道局	二 一八・二三	四 八九・三六	四 三・三四	四 二七・〇九	六・七
	市電氣局	三 二九・五	一 一七・三〇	一 一四・三	三 二九・五	一四・三〇
	東京電燈株式會社	一五 三三〇・〇二	一 二八・二	一 二七・四	一五 三三〇・〇二	二八・二
	東京瓦斯株式會社	二 九七・四〇	一〇 九〇・四	一〇 二七・四	二 九七・四〇	四・九
	計	三 九二・一六	一五 三三〇・〇二	一五 二七・四	三 九二・一六	四・九
昭和三年	市水道局	七 二、三五・六〇	一五 三二・八〇	一五 五・二〇	一五 二、七〇・四〇	七九・二三
	市電氣局	五 一三四・九	一 二七	一 〇・八三	六 一三七・六	六三・九五
	東京電燈株式會社	四 一三・四〇	一 六・二〇	一 六・二〇	四 一三・四〇	六・二〇

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

事業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
東京瓦斯株式會社	二〇	二,〇九八・八〇	四九七・五八	六四四	九四四・七〇	二七二・四一	六三四	三,〇三三・五〇	七六八・九九
市電氣局	三六	四,七四一・七九	一,二八〇・八三	七七一・三〇・七	三三〇・四四	八〇三	五,九三三・〇六	一,六二二・二七	
東京電燈株式會社	三	四〇〇・七九	二四・六九	—	—	—	四〇〇・七九	—	二四・六九
市水道局	九	二,五七六・八三	七六八・三〇	一九六	四〇二・一六	一〇〇・五四	二〇五	二,九七九・九	八六八・八四
市電氣局	二	九四四・二九	三三三・二一	—	二二七	〇・八三	三三	九七〇・六	三三三・九四
東京電燈株式會社	二六	四八三・七二	二〇二・九	—	—	—	二六	四八三・七二	二〇二・九
東京瓦斯株式會社	二六	三,六六六・七〇	九四四・二	八九二・二六・七	—	三九・九七	九七	四,九三三・二七	一,三四〇・九
計	八四	七,六一・四	二,二〇〇・五	一,〇九二・一七・五	四八一・三四	一,一八〇	九,三三三・〇四	二,七四一・八六	

前記要求工事千八百十件の内道路後修を要したるもの千二十六件、金額六千七百十五圓九十五錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
市水道局	四	三五・二六	五	六六・三五	一	一四八・四八	—	—	一,一三三・〇九
市電氣局	三	二九・六九	四	五三・二八	六	五七四・一六	—	—	一,二二七・一三
東京電燈株式會社	三	四五・六四	八	三六〇・五	五	一四四・三	二	二八・五〇	五九一・〇一

東京瓦斯株式會社	計
三六〇	四〇七
八八六・四七	一,四一〇・〇六
一三	二
五三四	六四
二,八七四・九五	四,三三三・一四
七六	六
一	一
四三三・三〇	八七三・三五
一	二
—	二八・五〇
—	—
八九五	一一〇・二六
三,八〇六・七二	六,七五・九五

市水道局	四	三六・二六	三	五	六六・三五	一	一四・四八	一三	一〇〇	一、三三・〇九
市電氣局	三	二九・六九	一〇	四	五三・二八	六	五七・一六	四七	一三	一、二七・一三
東京電燈株式會社	三	四五・六四	八	八	三六・〇五	五	一〇四・三	一九	六	五九・〇一

東京瓦斯株式會社	三六〇	八六・四七	二三	五	二、八四・九五	一	四三・三〇	一	八九五	三、八六・七二
計	四〇七	一、四〇・〇六	二	六四	四、三九・一四	一三	八七・三五	二	一一、〇三六	六、七五・九五

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は千四百四十八件其の延長九千六百四十五間〇八、掘鑿面坪三千七百七十三坪四八にして、之を事業者別に見るときは、市水道局百七十一件其の延長二千六百六十一間二九、掘鑿面坪六百六十六坪七四、市土木局下水課十七件其の延長二十三間六四、掘鑿面坪十一坪八二、市電氣局百四十二件其の延長四千八百九十二間五、掘鑿面坪千六百三十四坪六二、東京電燈株式會社三十六件其の延長四百六間五八、掘鑿面坪百八十四坪六二、東京瓦斯株式會社七百八十二件其の延長二千六百六十一間〇七、掘鑿面坪六百七十五坪六八なり、尙之を類別すれば大掘鑿百六件其の延長七千二百八間、掘鑿面坪二千四百五十三坪二五、小掘鑿千四百三十七間〇八、掘鑿面坪七百二十坪二三なり、其の許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件數	延長	件數	延長	件數	延長
昭和二年	市水道局	二	三〇・四七	二四	四八・〇八	二六	八五・五五
	市電氣局	二	六八・五〇	三	一一・七三	五	八〇・二三
東京電燈株式會社	計	三	六・七〇	一	一一・〇〇	四	一七・七〇
	東京瓦斯株式會社	二	一〇七・〇〇	一九四	四七・五七	一九六	五四・五七
計	九	二二九・六七	二三三	四九八・六九	二三三	七八・三五	

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

計	昭和三年				昭和四年				合計
	市水道局	市電氣局	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	市水道局	市電氣局	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	
10K	六	三三	一七	四	三	一	二	八	10K
7,110K.00	五六.九三	一,一七二.三〇	一三九.五	一五.三〇	一,八八.八九	—	一三.五〇	四一〇.八〇	7,110K.00
11,431.三五	一九.三五	三九〇.元	一〇.二八	六.二〇	五八.六四	—	四.九〇	一五〇.六〇	11,431.三五
1,120.1	七三	三	六	三七	一五	三三	一九	七四	1,120.1
11,437.〇〇	一四.二〇	二八.八七	六.九三	八五.一三	三三.四〇	七.三七	四七.五	一七五.〇七	11,437.〇〇
7,110.三三	三六.〇五	三六.六	二.〇八	二六.二五	七.二〇	二二.七	〇.八六	五五.〇八	7,110.三三
1,148.九六	五	五四	三三	三九	一七	三七	一九	七二	1,148.九六
9,641.〇〇	六七.三二	一,三〇.一七	一四六.四九	一〇〇.四三	二,一六.二九	—	五七.〇七	四〇六.五	9,641.〇〇
3,173.四八	一八五.四〇	四九.〇五	一〇三.三六	三三.七四	六六.七四	—	一七.一七	一八四.六二	3,173.四八

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年一月三十一日之が作成を了し市土木局に引繼を爲したり、其の臺帳記入工作物は、
 之を類別すれば新設せるもの電柱百二十七

計	108	7,200.00	2,443.35	1,001.11	2,447.08	710.33	1,148.96	5,650.88	3,173.48
---	-----	----------	----------	----------	----------	--------	----------	----------	----------

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年一月三十一日之が作成を了し市土木局に引繼を爲したり、其の臺帳記入工作物は電柱二百三十六本、管線路一萬七千四百七十七間七一にして、之を類別すれば新設せるもの電柱百二十七本、管線路一萬八百五十三間一五、撤去せるもの電柱百九本、管線路三千九百五十二間五六、埋殺せるもの二千三百四十二間なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

種別	新設	撤去	埋	殺	計
水道	三、四二七・六三 間 二七本	一、〇〇八・一〇 間 一九本		四六・〇〇 間	四、四七二・七三 間 二二六本
電柱東	四、一三六・三三 間 二七本	一、四四五・四一 間 一九本			五、六七二・六三 間 二二六本
電纜	三、六五・六一 間 二七本	二、六五・五五 間 一九本			六、三〇・六六 間 二二六本
瓦	二、八四三・七〇 間 二七本	一、一三三・八〇 間 一九本			六、三三三・五〇 間 二二六本
計	一〇、八五三・一五 間 二七本	三、九三三・五五 間 一九本	二、三四一・〇〇 間		一七、一四七・七〇 間 二二六本

第二十三地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

一、本會自成立以來，承蒙各界人士之熱心贊助，業務日見發達。茲為便利會員起見，特將本會之組織及業務範圍，分述如下：

二、本會之組織，分為：

部	科	員	職
總務部	秘書科	秘書長	秘書
	庶務科	庶務長	庶務
財政部	會計科	會計長	會計
	查帳科	查帳長	查帳
教育科	教育科	教育長	教育
	訓練科	訓練長	訓練
研究部	研究科	研究長	研究
	調查科	調查長	調查
其他	其他	其他	其他
	其他	其他	其他

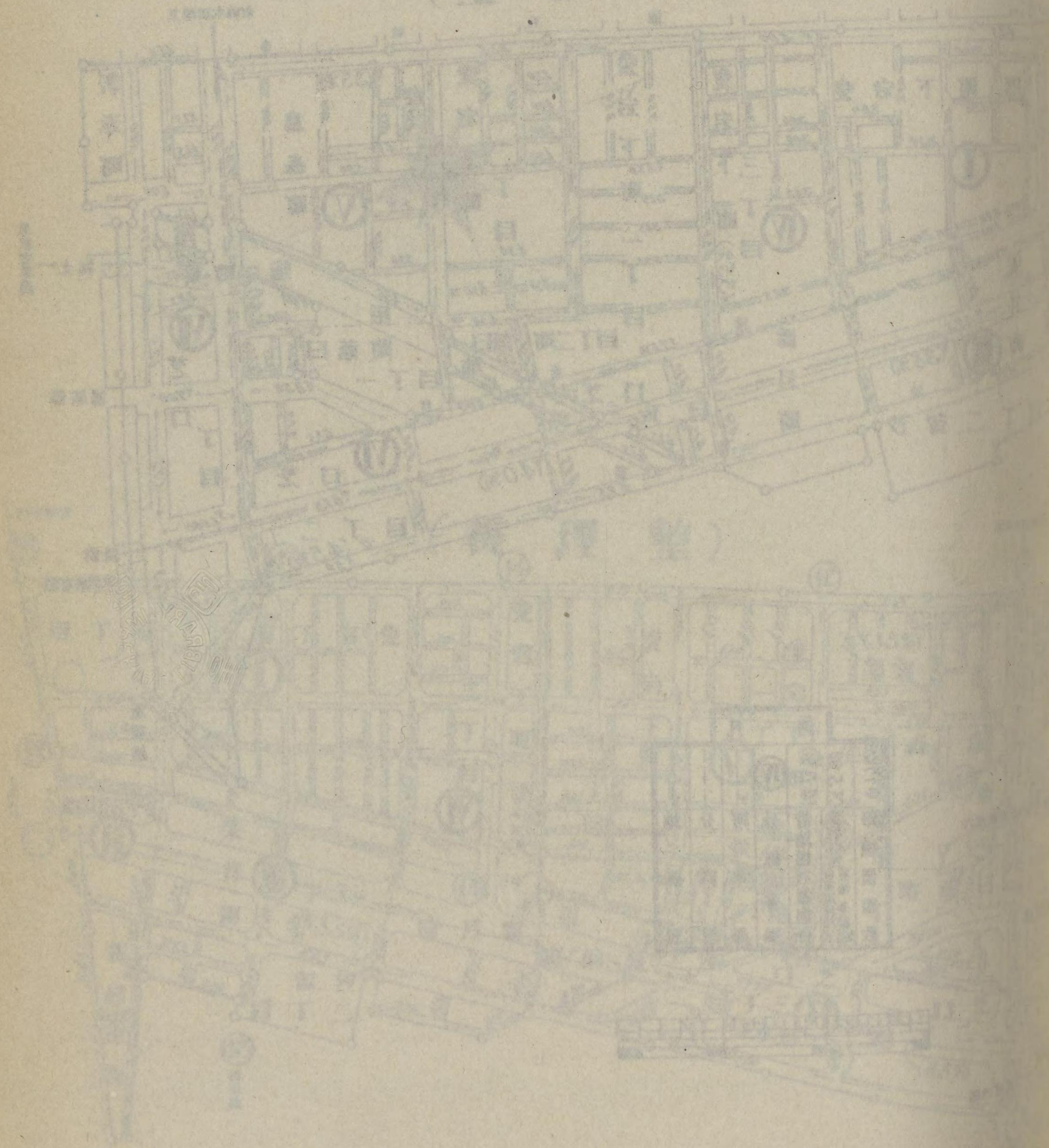
中華民國二十二年四月二十二日

第二十四地區

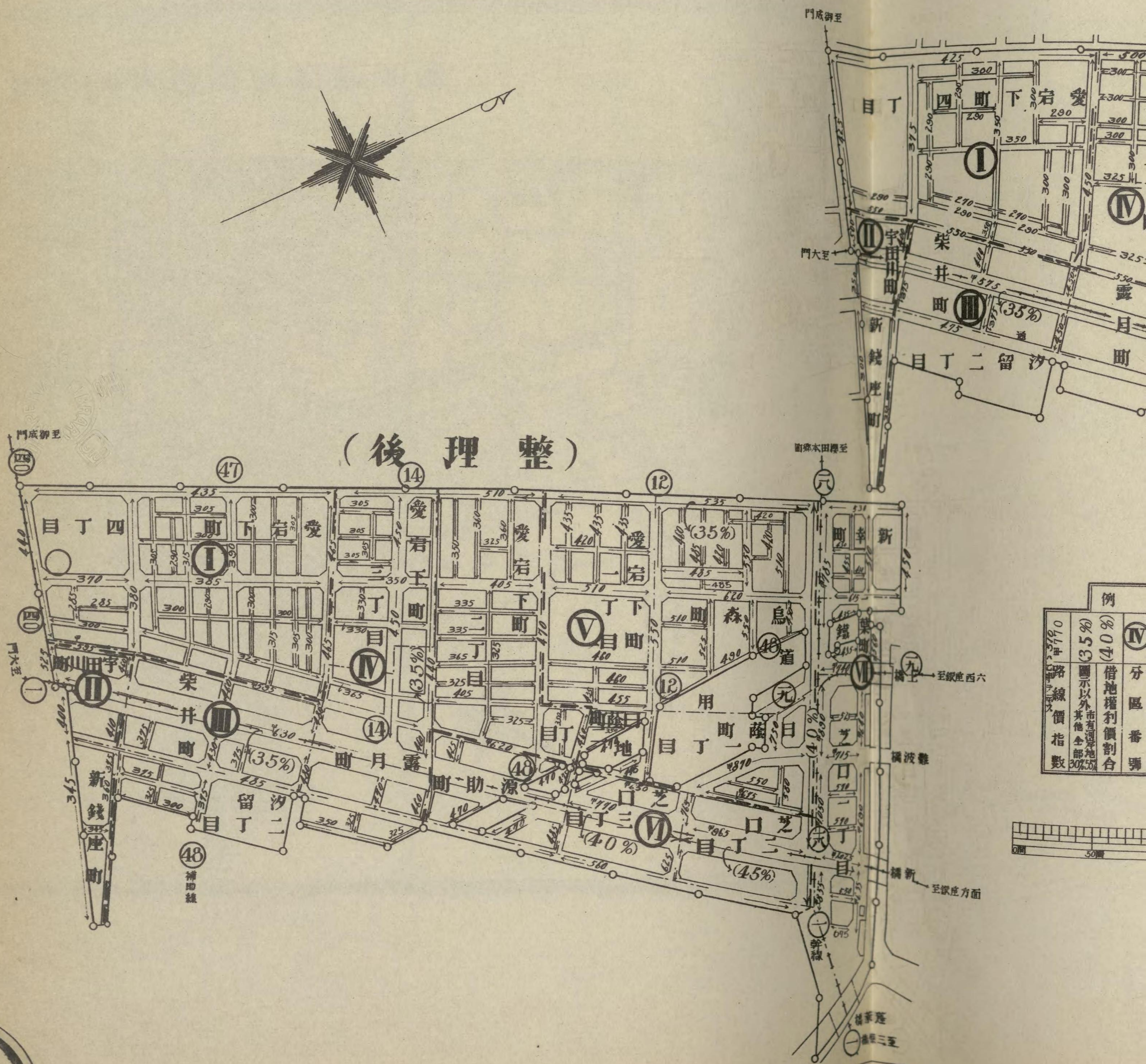
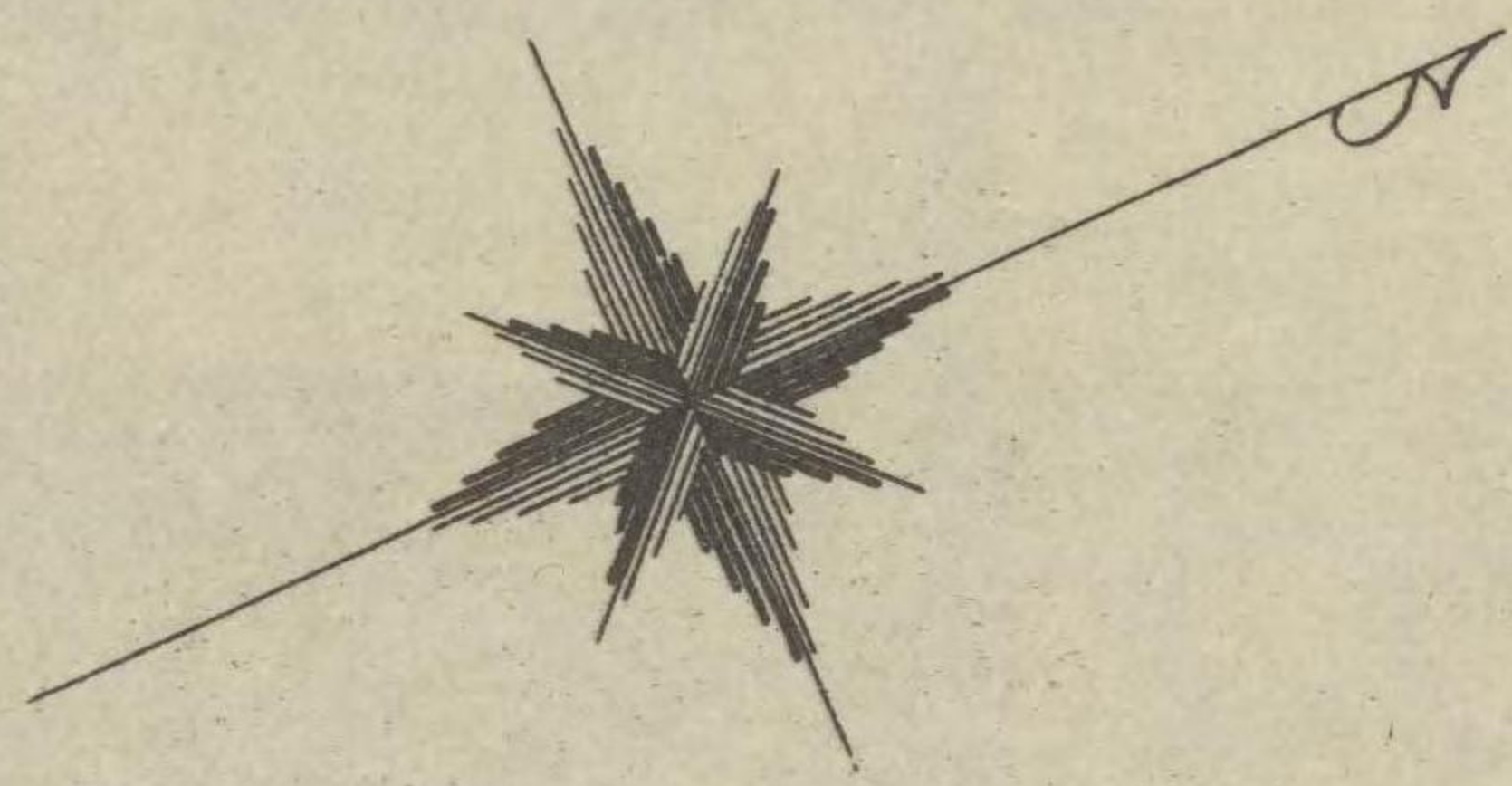
第二十四紙圖

第二次之四時地圖

(豐 數 節)



圖况概後前理整區地四十



廣東省城圖

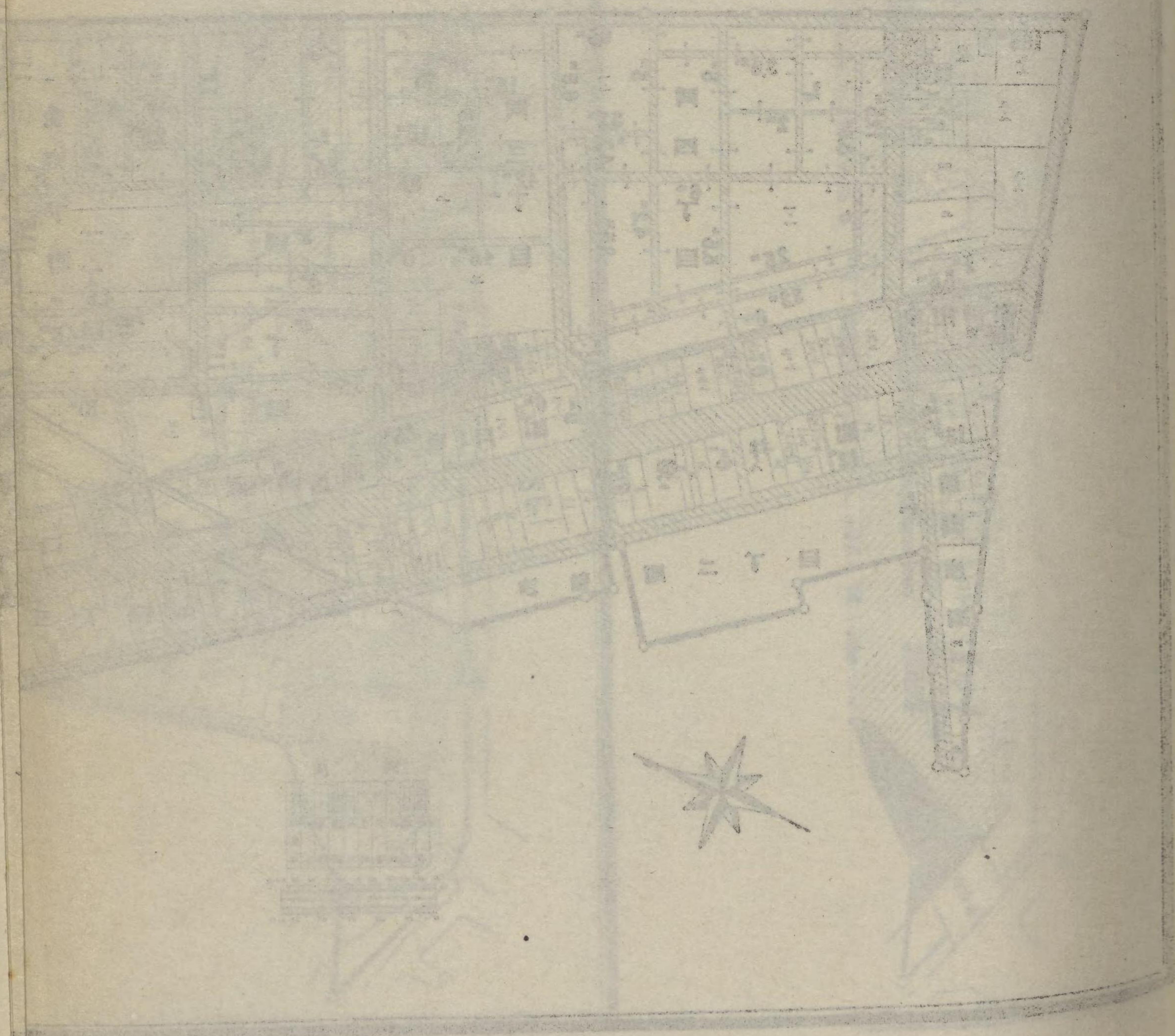
(前埠)

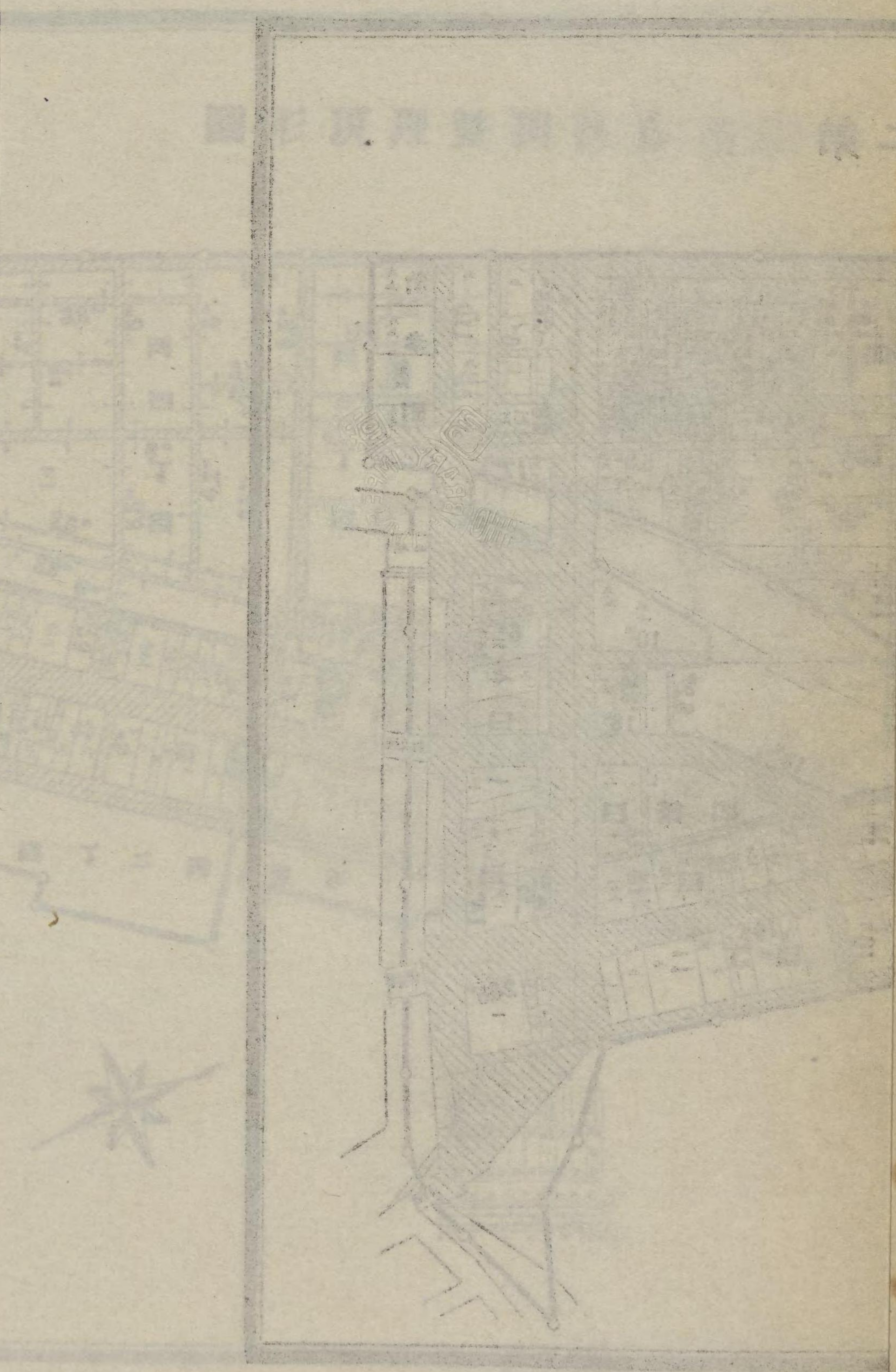
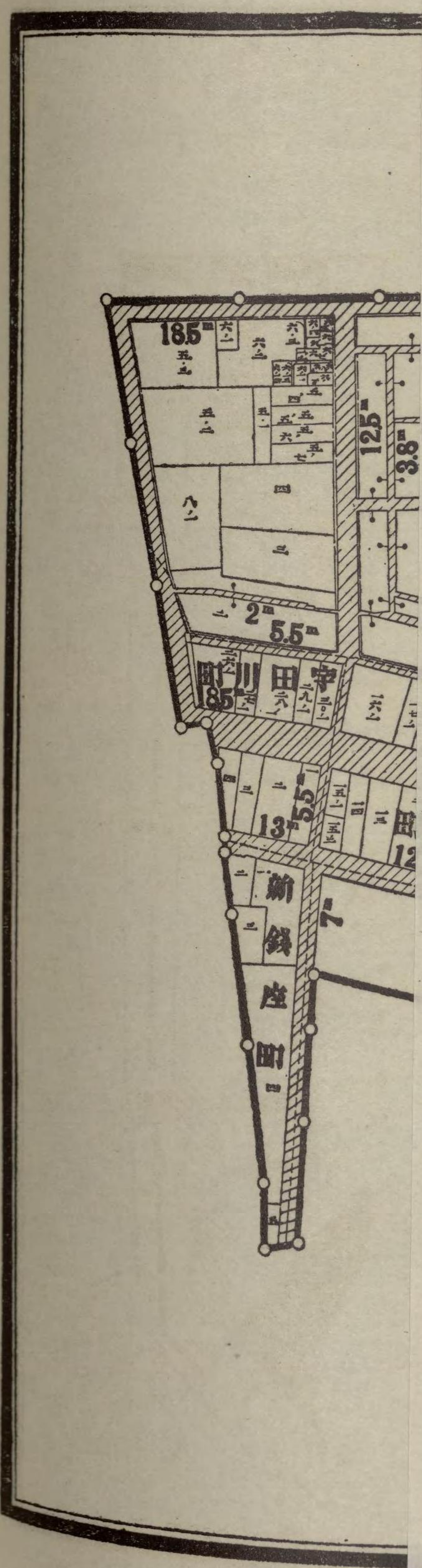
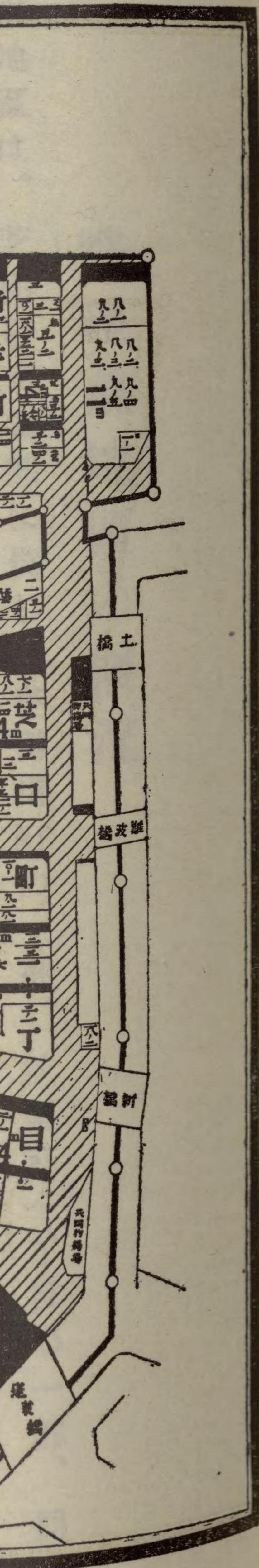


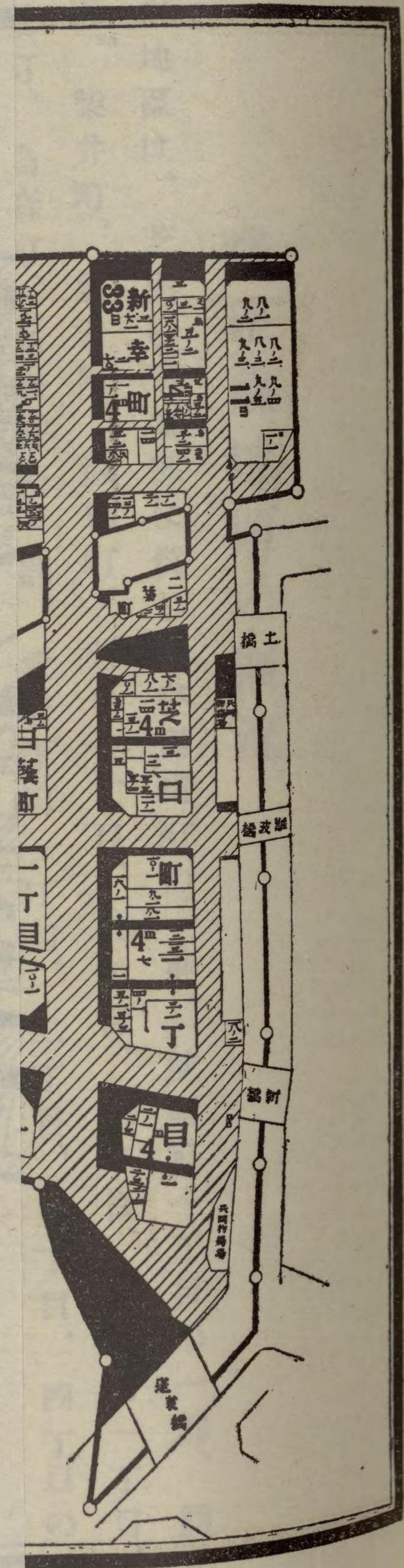
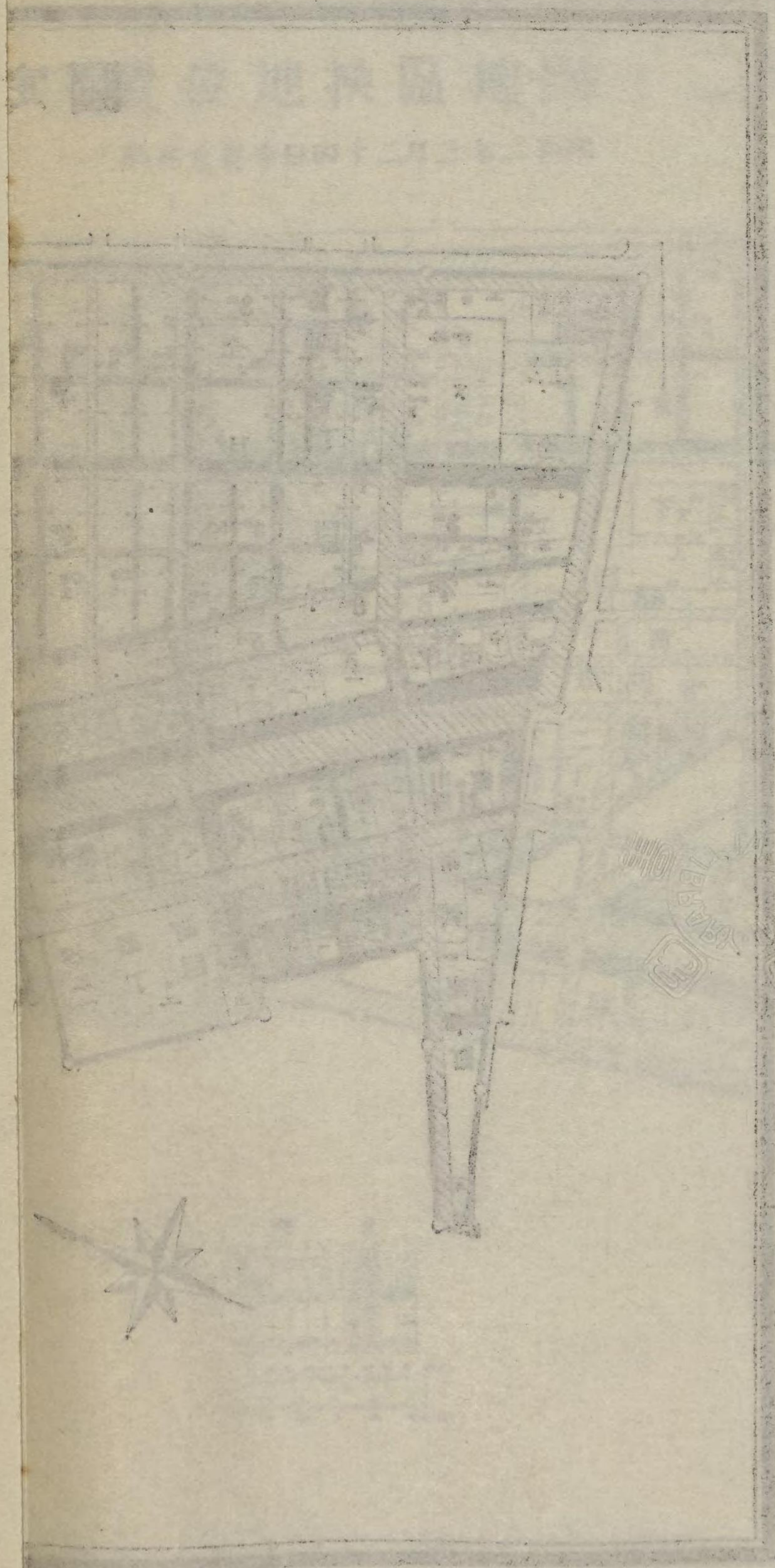
(後埠)



十四朝國圖覽覽與法圖

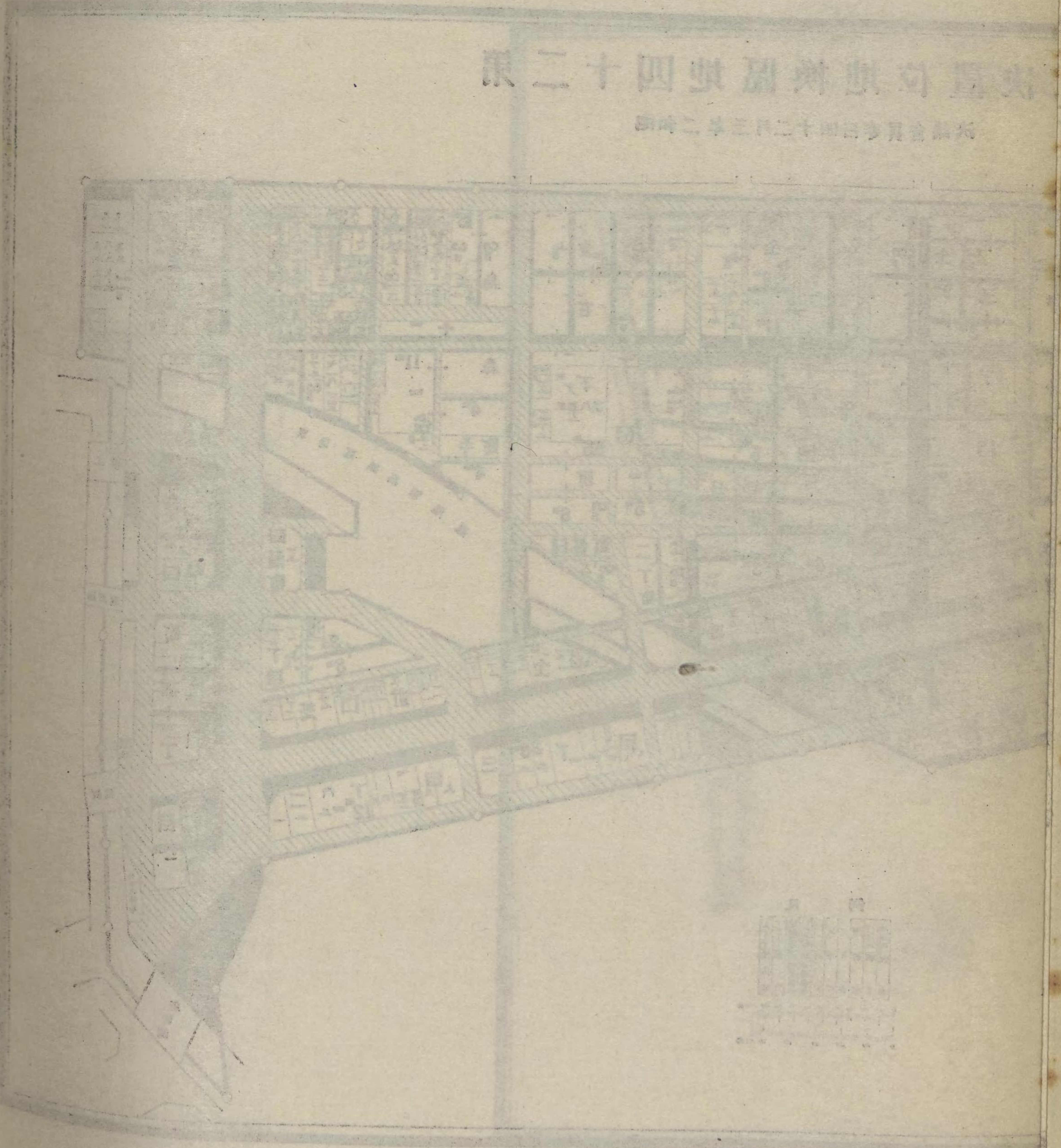






本
地
區
は、
芝
區
の
東
北
部
に
位
し、
宇
田
川
町
の
一
部、
汐
留
町
一
丁
目
の
一
部、
同
二
丁
目
の

整理前地区の概況



整理前地區の概況

本地區は、芝區の東北部に位し、宇田川町の一部、汐留町一丁目の一部、同二丁目の一部、柴井町、露月町、源助町、芝口一丁目、二丁目、三丁目、日蔭町一丁目、二丁目、二葉町、烏森町、新幸町の一部、愛宕下町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目の一部、新錢座町の一部及芝口河岸を包括し地區の中部を斜走する省線敷地及烏森町烏森神社境内地を除く東は汐留驛に接し、西は通稱赤煉瓦通に依り第二十三地區櫻田本郷町、兼房町、南佐久間町二丁目並第二十五地區田村町、愛宕町三丁目に連なり、南は第二十六地區新錢座町、宇田川町、宇田川横町及芝公園に隣し、北は汐留川を界として第二十地區丸屋町、日吉町、南金六町並第二十二地區木挽町七丁目に對す、其の形狀東西に短く南北に長さ長方形を成し、地勢平坦なり、地區の總面積は、五萬四千五百三十一坪七合三勺にして、之に所在する建物の總棟數二千九百七十棟なり。

而して芝口一丁目より北へ新橋に至る電車通は、商業最も殷盛にして、芝口一丁目より西に二葉町と烏森町との界を経て、櫻田本郷町に至る電車通及芝口二丁目より宇田川町を経て品川方面に至る電車通之に次ぎ、日蔭町一丁目より同二丁目に至る通稱日蔭町通は路面狹隘なるも、商店櫛比し殷賑なり、汐留町一丁目、二丁目は全部鐵道省用地にして、新幸町には東京市愛宕尋常小學校、愛宕下町四丁目には同櫻川尋常小學校あり、愛宕下町一丁目、二丁目、三丁目及四丁目には住宅多く、烏森町及愛宕下町一丁目には花柳街あり。

甲 整地

第一章 土地區劃整理委員會

第一節 委員

第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第二十四地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十八人にして、其の選舉を大正十三年七月二十九日芝區役所に於て執行したるに、何れも左記の通常選せり。

一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

野 寄 磯 吉

川 口 與 三 郎

澁 井 德 兵 衛

久 能 木 孝 則

堤 德 藏

橋 本 岩 吉

都 築 百 次 郎

小 池 彌 重 郎

前 田 卯 之 吉

借地権者の部

仲 村 富 次 郎

中 澤 惣 次 郎

竹 下 延 保

飯 塚 伊 勢 次 郎

山 田 恒 雄

壽 藤 勝 太 郎

國 分 常 直

杉 村 金 次 郎

高 木 三 五 郎

二 同上補闕委員

土地所有者の部

宮 澤 豊 七

清 水 延 次 郎

加 川 甚 五 郎

藤 森 勝 三 郎

柴 田 庄 次 郎

川 崎 勝 五 郎

鈴 木 磯 吉

荒 井 吉 五 郎

宮 崎 治 右 衛 門

高木三五郎
二 同上補闕委員
土地所有者の部

宮澤豊七
柴田庄次郎
宮崎治右衛門
清水延次郎
川崎勝五郎
加川甚五郎
鈴木磯吉
藤森勝三部
荒井吉五郎

借地権者の部

森田彦次郎
駒場一郎
武山與四郎
明木太郎
藤山東次郎
近藤謙治
渡邊久藏
大竹儀三郎
小林和作

第二 議長及副議長の選挙並其の異動

大正十三年八月十三日芝區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て假議長都築百次郎、議長及副議長選挙の方法を諮りたるに、假議長の指名に決したるを以て、左の如く指名したり。

議長 竹下延保
副議長 久能木孝則

議長竹下延保大正十五年十月七日辭任したるに因り、同日副議長久能木孝則議長選挙を執行したるに左の適當選せり。

議長 久能木孝則

同日副議長久能木孝則議長に當選したるに因り、議長は副議長選挙を執行したるに左の適當選せり。

副議長 前田卯之吉

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

一 土地所有者選出委員小池彌重郎死亡したるに因り、大正十五年二月二十七日同補闕委員宮澤豊七

第二十四地區 甲 整地

補充せらる。

二 土地所有者選出委員川口與三郎辭任したるに因り、昭和二年七月六日同補闕委員清水延次郎補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年八月二十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し八月十日限東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

右大正十四年七月六日諮問

同日原案可決の上答申

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年七月六日諮問

委員會十五回 特別委員會十九回開催

大正十五年一月二十八日より昭和二年三月十六日迄十三回に修正決議の上其の都度答申

議事要綱

本案は重大案件なるを以て慎重調査の上決定すべきものとなし、全地區を一の部(芝口一丁目、二丁目、町及二葉) 二の部(新幸町、二葉町の一部、烏森) 三の部(愛宕下町三丁目、四丁目、露月町、柴井)の三部に分ち、各六名町の一部) 一の部(町、愛宕下町一丁目及二丁目) 二の部(町、宇田川町、新錢座町及汐留町二丁目)の三部に分ち、各六名

三 諮問第三號

整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に關する件

宛の委員を選出し、熟議の上各部より修正意見を持寄り、委員會に於て審議の結果修正の上決議せり。

議事要綱

本案は重大案件なるを以て慎重調査の上決定すべきものとなし、全地區を一の部（芝口一丁目、二丁目、町及二葉）二の部（新幸町、二葉町の一部、烏森）三の部（愛宕下町三丁目、四丁目、露月町、柴井）の三部に分ち、各六名町の一部（愛宕下町一丁目及二丁目）宇田川町、新錢座町及汐留町二丁目）の三部に分ち、各六名

宛の委員を選出し、熟議の上各部より修正意見を持寄り、委員會に於て審議の結果修正の上決議せり。

三 諮問第三號 整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に關する件

大正十四年十月八日諮問

委員會四回開催

大正十五年一月二十八日及昭和四年六月二十六日の二回に原案可決の上答申

四 諮問第四號 換地面積決定に關する件（地區全部）

大正十五年三月四日諮問

委員會十四回開催

大正十五年七月二十日より昭和二年三月二十四日迄九回に原案可決の上其の都度答申

五 諮問第四號の一 換地面積一部變更に關する件（日蔭町一丁目及烏森町の各一部）

昭和二年三月二十四日諮問

同日原案可決の上答申

六 諮問第二號の一 換地位置變更に關する件（烏森町の一部）

昭和二年八月六日諮問

昭和二年八月九日原案可決の上答申

七 諮問第四號の二 換地位置並面積變更に關する件（烏森町の一部）

昭和二年八月六日諮問

昭和二年八月九日原案可決の上答申

第二十四地區 甲 整地

八 諮問第四號の三 換地位置並面積變更に関する件

(烏森町、芝口一丁目各一部)

昭和三年六月四日諮問

委員會二回 協議會一回開催

昭和三年六月七日原案可決の上答申

九 諮問第四號の四 換地位置並面積變更に関する件

(芝口一丁目、二丁目、芝口河岸、新幸町及烏森町の各一部)

昭和三年九月六日諮問

同日原案可決の上答申

一〇 諮問第五號 土地各筆清算に関する件

昭和四年六月一日諮問

委員會二回 協議會二回開催

同日原案可決の上答申

一一 諮問第六號 換地處分に関する件

昭和四年八月十日諮問

同日原案可決の上答申

一二 諮問第七號 補償金の配當に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依り各権利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左表の土地に對する配當額は整理前指數相當額と爲さむとす。

町名	地番	町名	地番
源助町	一二ノ三	烏森町	一ノ九九
		汐留町	二丁目
			一ノ一

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合は補償總指數を特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依り各權利の整理前指數に按分したる率に依らむとす、但し左表の土地に對する配當額は整理前指數相當額と爲さむとす。

町	名地	番	町	名地	番	町	名地	番
源助町		一二ノ三	烏森町		一ノ九九	汐留町二丁目		一ノ一
同		一二ノ六	愛宕下町四丁目		六ノ二	同		一ノ二
芝口三丁目		七ノ一	同		六ノ一〇	露月町		九ノ二
同		七ノ二	汐留町二丁目		一	同		一九ノ三

右昭和四年八月十日諮問

委員會二回開催

昭和四年八月二十日原案可決の上答申

一三 諮問第八號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後土地の分合權利の讓渡等ありたる場合の處理方の件

諮問第六號換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申ありたる後、土地の分合、權利の讓渡等ありたる場合に於て未だ換地處分の告示前なるときは左記に依り換地説明書に變更を加ふるものとす。

記

一 新に借地權設定の登記若は届出ありたる時、所有權若は借地權の分割讓渡又は借地の一部の轉貸に關する登記若は届出ありたる時は、當該權利の換地に付新借地人讓受人、轉借人の權利の範圍、整理前後の權利指數並清算金額を適當に指定算出の上之に依り換地説明書中當該權利の分を變更す。

第二十四地區 甲 整地

第二十四地區 甲 整地

八四八

二 處分の制限に關する登記ありたるときは當該權利の換地に付適當に處分の制限を受くべき部分を指定し換地説明書に之を記載す。

右昭和四年八月十日諮問

委員會二回開催

昭和四年八月二十日原案可決の上答申

第二章 整理前土地の状況

本地區の總面積は十一萬三千十三坪三合八勺にして、内宅地面積七萬五千九百八坪七合二勺、公共用

第二章 整理前土地の状況

本地區の總面積は十一萬三千十三坪三合八勺にして、内宅地面積七萬五千九百八坪七合二勺、公共用地面積三萬七千四百坪六合六勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は、宅地六割七分二厘、公共用地三割二分八厘なり、宅地内借地面積は四萬八千二百十四坪八合五勺にして、其の宅地面積に對する割合は六割三分五厘なり。

本地區に於ける街路及河川分布の状況を述べれば左の如し。

一 主要街路

宇田川町より柴井町、露月町、源助町、芝口三丁目、芝口二丁目、芝口一丁目を経て新橋に至る街路は幅員十間乃至十五間にして、地區の東部を南北に貫通し、芝口一丁目より烏森町を経て虎の門方面に至る街路は、幅員十五間乃至十九間にして、地區の北部を東西に走り、市電御成門停留場方面より愛宕町三丁目及愛宕下町四丁目を経て宇田川町に至る街路は幅員十間乃至十四間にして、地區の南境に在り、何れも電車軌道を敷設す。

二 其の他の街路

宇田川町と新錢座町との界より芝口一丁目と汐留町一丁目との界に至る街路通稱汐留通は幅員六間乃至八間、地區の西界を爲す通稱赤煉瓦通は、幅員七間半乃至十間、蓬萊橋より新橋南詰を経て、新幸町に至る街路は幅員五間半乃至十六間半、難波橋より新橋驛前に至る街路は幅員九間半乃至十一間半、新橋驛南口より西へ愛宕下町一丁目と烏森町との界を通ずる街路は幅員三間乃至六間、宇田川町と愛宕下町四丁目との界より東部の電車通に並行して芝口二丁目と日蔭町通に至る街路は幅員二間乃至三間にし、其の他は街路系統不規則なり。

第三章 計畫の概要

第一節 街路運河及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路左の如し。

第一 幹線街路

第一號線は地區を南北に縦貫し宇田川町より蓬萊橋に至る街路にして、宇田川町より芝口二丁目に至る間は幅員を三十六米とし在來街路を兩側に、芝口一丁目より蓬萊橋に至る間は幅員を四十四米とし在來街路を南側に擴張し、第十八號線は芝口一丁目より烏森町を経て櫻田本郷町方面に至る幅員三十三米の街路にして北側に擴張し、第十九號線は土橋より新橋驛に至る街路にして、土橋より二葉町に至る間は幅員二十七米在來街路を東側に擴張し、二葉町南端より新橋驛に至る間は幅員二十二米新設なり、又地區の南境をなす、第四十號線は愛宕下町四丁目より宇田川町に至り、第一號線に會する幅員二十二米の街路にして、第二十六地區側に擴張せり。

第二 補助線街路

第十二號線は愛宕下町一丁目と烏森町との界より、新橋驛に至る幅員十五米の街路にして兩側に擴張し、第十四號線は地區の中央に在りて露月町より愛宕下町三丁目に至る幅員十五米の街路にして新設し、第十六號線は新幸町の西端に在る街路にして幅員十五米在來街路を東側に擴張し、第四十七號線は柴井町より愛宕下町四丁目に至る幅員十一米の街路にして兩側に擴張し、第四十八號線は鐵道に沿ひ烏森町より源助町に至る幅員八米街路にして新設し、第五十三號線は烏森町より宇田川横町に至る幅員十一米の街路にして烏森町は兩側に、愛宕下町一丁目及同二丁目は西側に、愛宕下町三丁目は兩側に、愛宕下

町四丁目の北部は西側に各擴張し、愛宕下町四丁目の南部は新設せり。

第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員三米、四米、五米、六米、八米、十一米、十三米五、十五米、十八米、二十二米及二十七米にして土地の狀況に應じ、且幹線及補助線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴築又は舊道利用を爲せり。

第四 運河

地區の東北端に在る汐留川は國施行の第十一號改修線に屬し、幅員を擴張して三十三米とし、河底を浚渫して深度一米八とす、其の幅員擴張の爲切取りたる面積五百八十三坪四合九勺にして、鐵道用地の潰地面積二百六十四坪三合六勺、公共用地の減步面積三百十九坪一合三勺なり。

第五 小公園

新設の櫻田公園は、愛宕下町一丁目に在りて、北は櫻田尋常小學校に隣り、南は十一米區劃整理街路に接し、東西は宅地の間に各六米の出入口を有し、東は五米五の區劃整理街路に、西は補助線第五十三號に通じ、其の面積八百八坪なり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	摘	要
	一	四・〇〇 三六・〇〇 米	一・〇三三・五 米	一一、一〇・七 坪		

幹	線	元 一八	三〇・〇〇 二七・〇〇 三〇・〇〇	三七五・八〇 一五〇・五〇	三、八四九・二七 九二・七	鐵道用地街路供用面積除外
---	---	------	-------------------------	------------------	------------------	--------------

區分番號	幅員	延長	面積	摘要
一	三,四〇〇米	一,〇三三米	三,一〇三坪	

區劃整理街路	計	
	補助線	幹線
	五 四 七 六 四 二	四 九 八
	一一〇〇 八〇〇 一一〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇	三三〇〇 一七〇〇 三三〇〇 三二〇〇
	二,〇〇九・六〇 一,六八八・四五 一,五〇〇 一,七五・六 九四四・〇〇 五五・六四 五七・七三	一,七七一・七 一八七・二七 一五〇・五四 三,八四九・二七 九二・七 六五・〇九
	四,七五・四二 五,九一七・八〇 六八二・三四 七二二・三 三,八九〇・九 三九八・二八 五七二・二七	一七,〇八・八〇 九五・八一 一,二八・七一 三三・三七 七六・五二 一七・七〇 二,六一・六二 六,二五・七三
鐵道用地街路供用面積除外	地區界	鐵道用地街路供用面積除外 地區界

第二十四地區 甲 整地

合 計	六・〇〇	六四三・八二	一、一七五・一〇
	五・〇〇	五六一・一八	八〇一・五
	四・〇〇	二、五七一・二三	三、一四八・四
	三・〇〇	一、六八・六四	一、五五・九二
		一〇、五四・八三	三三、六八・三三
		一四、七五・四	四七、四三・六

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は、大正十四年七月六日土地區劃整理委員會に附議し、大正十五年一月二十八日より昭和二年三月十六日迄十三回に修正決議したるも、其の後一部變更案を提出し、昭和三年九月六日之を議了せり、換地面積決定に關する件は、大正十五年三月四日委員會に附議し、同年七月二十日より昭和二年三月二十四日迄九回に原案可決したるも、其の後一部變更案を提出し、昭和三年九月六日議了せり。

換地設計に因る宅地面積六萬千九百八十八坪一合一勺にして、公共用地面積五萬千二百五十五坪二合七勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地五割四分九厘、公共用地四割五分一厘なり、宅地の内借地面積は四萬五千四百八十八坪八合七勺にして、之が宅地面積に對する割合は七割三分四厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬七千六百六十六坪六合二勺、公共用地が宅地となりたる面積三千四百四十六坪一勺、差引潰地面積一萬三千九百二十坪六合一勺にして、減歩率一割八分三厘

三毛なり。

土地區劃整理に際し従前新橋驛附近に所在せる、フレザー同族株式會社所有敷地を其の西南部に分割換地したる爲、同會社より反對陳情ありたるを以て、設計を變更し、汐留驛附近に一筆換地を交付し、

なり、宅地の内借地面積は四萬五千四百八十八坪八合七勺にして、之が宅地面積に對する割合は七割三分四厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬七千六百六十六坪六合二勺、公共用地が宅地となりたる面積三千四百四十六坪一勺、差引潰地面積一萬三千九百二十坪六合一勺にして、減歩率一割八分三厘

三毛なり。

土地區劃整理に際し従前新橋驛附近に所在せる、フレザー同族株式會社所有敷地を其の西南部に分割換地したる爲、同會社より反對陳情ありたるを以て、設計を變更し、汐留驛附近に一筆換地を交付し、且従前の土地に比し等位を異にするが故に、之に對し金錢清算を爲せり、其の經緯左の如し。

整理前に於けるフレザー同族株式會社所有敷地は、芝區愛宕下町一丁目三番面積千七百六坪六合にして、省線新橋驛の西南に位し、新橋驛南より愛宕下町一丁目と烏森町との界に至る幅員十一米街路と、愛宕下町一丁目と同二丁目との界に在る幅員十一米街路との間に介在し、東西兩側は他の宅地に接せり、フレザー同族株式會社は當時此の敷地全部を逓信省に貸付け、同省は電線及電柱等の材料置場に使用せり。

換地設計に當り、同會社所有敷地の場所に櫻田公園新設の計畫あり、且之に北隣して、新幸町所在櫻田小學校敷地の換地を交付せむとしたる爲、同會社所有敷地を愛宕下町四丁目に、二箇所に分ちて飛換地するの己むなきに至れり、之に對して、フレザー同族株式會社は位置變更に異議を申出でたるも、公園計畫上位置變更を中止すること能はず、種々講究の結果、汐留町二丁目元鐵道省官舎跡に其の一團として換地を交付するの案を土地區劃整理委員會に附議し、大正十五年十二月二十二日換地位置を、昭和二年一月二十九日換地面積を決議したり、同換地は通稱汐留通、即ち十一米區劃整理街路に沿ひ面積千六百四十五坪一合五勺にして汐留驛の南方に在り、省線に近きを以て騒音甚だしく、住宅に適せず、又商業繁華ならざるを以て商店に適せざるも、倉庫地として利用するを得べき土地なり、フレザー同族株式會社は、此の換地位置に對して反對運動を試みたれども、前述の如く公園計畫上止むを得ず飛換地を交付せる旨説明したり、然るに昭和三年一月下旬同會社は、従前の土地と換地との土地價格に莫大の差額あるを以て、之が爲に蒙る損害は充分考慮せられ度旨陳情せり、其の後同會社は汐留町二丁目の換地

第二十四地區 甲 整地

の北側に沿ふ幅員十二米の街路は公道に非ず鐵道省の私道なるを以て、土地評價に際し右事情斟酌の上査定せられ度旨陳情する所あり、仍て當局に於ては是等の事情を參酌し、慎重に土地を評價して清算せり。

整理前後に於ける土地狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

整理後	整理前	區分		借地面積	内 借地 面積	宅地 面積	公共 用地	公共 用地 面積の 總對 面積に 對する 割合	潰地 面積	潰地 面積の 整理前 宅地 面積に 對する 割合	潰地 面積の 整理前 宅地 面積に 對する 割合
		總面積	宅地 面積								
		一三、〇三・三八 ^坪									
		四五、四八・八七	六二、九八・二二	四八、二四・八五	七五、九八・七二 ^坪						
		〇・七三四	〇・五四九	〇・六三五	〇・六七三						
		五二、〇五・二七		三七、一四・六六 ^坪							
		〇・四五二		〇・三三八							
				一三、九〇・六一 ^坪							
				〇・一八三八・六二							
				六、三九・七四 ^坪							

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

區分	民有地	國有地	公有地	計
----	-----	-----	-----	---

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理前	整理後	區分	民有地	國有地	公有地	計
五、六八・八五	五、七六・〇七		七、九四・二七	一、二六・三三	二、一七・四八	五、九八・三
					二、三三・〇三	六、九八・二

整理前公共用地面積内譯

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
三、八三・一五	四、三九・二七	五、五三・三三	三、三五・八三	二、〇七・三	—	二〇七・九七	—	一、五三・五	三、一〇四・六

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
一七、六〇八・八〇	六、二五・七三	三、六八・三三	四、四三・六	二、五九・八〇	—	一八八・〇〇	—	—	五、〇三・七

第二十四地區 甲 整地

區とせり、其の區域及分區別整理前後宅地、潰地面積を表示すれば左の如し。

分區別區域調

分區番號	區	域	分區番號	區	域
一	芝區愛宕下町四丁目		五	芝區愛宕下町一丁目 日蔭町一、二丁目 烏森町	
二	同區宇田川町、新錢座町		六	同區芝口二、三丁目 源助町	
三	同區柴井町、汐留町二丁目、露月町の一部		七	同區新幸町、二葉町 芝口一丁目	
四	同區愛宕下町二、三丁目 露月町の一部				

分區別整理前後宅地面積調

分區番號	整理前面積	整理後面積	潰地面積	減步	率
一	一四、八三・五 ^坪	一三、八四・八 ^坪	一、九七・七 ^坪		〇・一四
二	二、六四・六	二、六七・九	三六・七		〇・一六
三	一、六四・五	八、七九・四	二、九五・五		〇・二五
四	一四、八五・四	二、七二・元	二、一二・五		〇・一四
五	一六、二五・三	一五、五六・九	二、六〇・三		〇・一六
六	七、九九・六	六、〇七・九	一、九一・八		〇・二九
七	七、六四・五	五、六〇・六	一、九四・九		〇・二五
計	七五、九〇・七	六、九八・二	一三、九〇・六		〇・一八

以上述べたる如く、換地設計の必要上潰地充當用地を買収し、且分區間に宅地の移出入を爲したる結果、各分區の減歩率に變更を來し、其の最高は第七號分區の二割四分六厘、其の最低は第二號分區の六分九厘となれり、而して本地區に於ける實際潰地面積は、八千六百四十七坪九合に減少し、其の減歩率一割二分二厘に低下せり、左に分區別買収面積、移出入面積、實際潰地面積及減歩率を表示すべし。

分區別買収移出入實際潰地面積調

分區番號	整理前面積	買収面積	移出面積	移入面積	差引面積	整理後面積	實際潰地面積	減歩率
一	一四、八三・五九 ^坪	七六・六七 ^坪	七九・五六 ^坪	七八・二三 ^坪	一四、四七・五六 ^坪	一三、八四・八八 ^坪	一、六三〇・六六 ^坪	〇・二三
二	二、六四・六九	—	二八・六五	—	二、四三・〇四	二、二七・九二	一六八・二二	〇・〇六九
三	二、六四・五五	四、五四・二三	五七・三元	三、〇七・二六	九、五九・三三	八、七九・四二	八四〇・九一	〇・〇八八
四	一四、八五・一四	—	六〇・九二	一六二・四一	一四、四八・六三	二、七二・三元	一、六六・二四	〇・二五
五	一六、二五・二二	四一・一四	二、四八・一〇	一、五〇・〇五	一五、三八・〇二	一三、五六・九一	一、七二・二一	〇・二五
六	七、九八・七六	三〇・七七	一、一五・六三	二八七・〇二	六、八五・四〇	六、〇七・九四	七七七・四六	〇・二七
七	七、六四・七五	—	九〇・八一	八一〇・一〇	七、五〇・〇四	五、六〇・六六	一、八四九・三六	〇・二四六
計	五五、〇八・三三	五、二七・二七	六、六八・〇八	六、六八・〇八	七〇、三三・〇二	六、九八・二二	八、四七・〇〇	〇・二三

第四章 土地の評價

第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は、大正十四年十月八日土地區劃整理委員會に諮問し、大正十五年一月二十八日及昭和四年六月二十六日の二回に原案の通可決せり。

整理前の土地の評價には、路線價に對する與行價格百分率中甲及乙の兩率を適用したり、其の適用路線を擧ぐれば左の如し。

第一 甲率適用路線

- 一 宇田川町より新橋に至る電車通
- 一 芝口一丁目より烏森町に至る電車通
- 一 愛宕下町四丁目より宇田川町に至る電車通
- 一 芝口一丁目より新橋南詰を経て二葉町に至る路線
- 一 難波橋より新橋驛前に至る路線
- 一 宇田川町と宇田川横町との界より芝口二丁目と日蔭町一丁目との界に至る路線
- 一 土橋より二葉町電車通に至る路線

第二 乙率適用路線

甲率適用以外の路線

其の路線價指數は土地の狀況に依り二百七十個乃至千個と評定したり、即ち新橋南詰より芝口一丁目電車交叉點迄を最高千個、愛宕下町四丁目一番地内の私道を最低二百七十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千九十二個、芝口一丁目十六番ノ一にして、最低は二百二十

八個、愛宕下町四丁目六番ノ十四なり。

宅地全筆の總指數は、土地總指數三千二百二十七萬六千五百八十個より、私道指數一萬四千四百六十

甲率適用以外の路線

其の路線價指數は土地の状況に依り二百七十個乃至千個と評定したり、即ち新橋南詰より芝口一丁目電車交叉點迄を最高千個、愛宕下町四丁目一番地内の私道を最低二百七十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千九十二個、芝口一丁目十六番ノ一にして、最低は二百二十

八個、愛宕下町四丁目六番ノ十四なり。

宅地全筆の總指數は、土地總指數三千二百二十七萬六千五百八十個より、私道指數一萬四千四百六十八個を控除したる三千二百二十六萬二千一百一十個にして、之を宅地總面積七萬五千九百八坪七合二勺にて除したる平均坪當指數は四百二十五個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至四割五分と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は、單獨に土地區劃整理委員會に諮問せず、昭和四年六月一日附議に係る土地各筆清算に關する件の内容として審議を經、同月二十六日原案の通可決したり。

本地區整理後の土地評價は整理前と同じく、甲及乙の兩率を適用したり。

第一 甲率適用路線

- 一 幹線第一號
- 一 幹線第一號と新橋との間の路線
- 一 幹線第十八號
- 一 幹線第四十號
- 一 芝口一丁目より新橋南詰を經て二葉町に至る路線
- 一 難波橋より新橋驛前に至る路線
- 一 宇田川町と宇田川横町との界より芝口二丁目と日蔭町一丁目との界に至る路線
- 一 幹線第十九號
- 一 新橋驛東北より幹線第十八號に至る路線

第二十四地區 甲 整地

第二 乙率適用路線

甲率適用以外の路線

路線價指數は土地の整理状況に依り二百八十五個乃至千五十個と評定したり、即ち幹線第十八號中芝口一丁目五番ノ一地先より同町十六番ノ一地先に至る間を最高千五十個、愛宕下町四丁目南部の三米區劃整理街路を最低二百八十五個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千六百六十六個、芝口一丁目十一番にして、最低は二百五十個、愛宕下町四丁目五十番なり。

換地全筆の總指數は二千九百二十一萬三千六百一十一個にして、之を換地面積六萬千九百八十八坪一合一勺にて除したる平均坪當指數は四百七十一個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、一般宅地を三割乃至四割五分と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數、各筆坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當及宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	1,000 <small>個</small>	700.00 <small>円</small>	1,050 <small>個</small>	750.00 <small>円</small>
各筆坪當	最高 1,092 最低 270	最高 744.00 最低 190.00	最高 1,266 最低 265	最高 816.00 最低 190.00
宅地總平均坪當	45	297.50	47	397.00

備考 指數單價は七十錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

宅地 總平均 坪當	各筆坪當	
	最低	最高
四五	二三八	一、〇九二
二九七・五〇	一九九・〇	七四四・四〇
四七一	一五〇	一、二六六
三九七・七〇	一七五・〇〇	八二六・二〇

備考 指數單價は七十錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	內私道 一、四、四六八	一六、〇九二、二二七・七〇 ^円	三、七二、九五 ^圓	一五、二四〇、三五・五〇 ^円
	外 一、八九、八〇七	一、三五、八四・九〇		
借地權	七、四〇七、八六二	五、一八五、五〇三・四〇	七、四三八、四六	五、二〇六、八九・二〇
	合計			
合計	內私道 一、四、四六八	三二、二七、四二・一〇	二九、二二〇、三六一	二〇、四四七、三三・七〇
	外 一、八九、八〇七	一、三三、七〇・六〇		

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
 二 整理前の總指數(潰地充當用買收地の指數を包含するもの)は三二、二七六、五八〇個なり。
 三 整理前宅地總指數(私道の指數を含まざるもの)は三二、二六二、一一二個なり。

尙整理前後に於ける土地權利價割合を表示すれば左の如し。

第二十四地區

甲 整 地

整理前後土地權利價割合調

區	域	土地權利價割合		
		所有權	借地權	計
一 市有河岸地	一 芝口二丁目九番地先より新橋に至る電車通（幹線第一號の一部及幹線第一號と新橋との間の二十七米區劃整理街路）	四五	四五	100
	一 芝口三丁目一番地先より源助町二番ノ五地先に至る電車通（幹線第一號の一部）	六〇	四〇	100
	一 芝口一丁目五番ノ一地先より新幸町三番地先に至る電車通（幹線第一號）	六〇	四〇	100
	一 露月町一番地先より宇田川町四番地先に至る電車通（幹線第一號の一部）	六〇	四〇	100
一 愛宕町三丁目一番ノ一地先より露月町一番地先に至る路線（八米區劃整理街路）	一 新幸町九番ノ二地先より愛宕下町四丁目五番ノ三地先に至る路線（十八米區劃整理街路）	六五	三五	100
	一 其他	七〇	三〇	100

備考 區域欄の括弧内は整理後の街路別を示す。

第五章 換地處分

備考 區域欄の括弧内は整理後の街路別を示す。

70 110 100

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は、昭和四年六月一日土地區劃整理委員會に附議し、同月二十六日原案の通可決し、換地處分に關する件は、昭和四年八月十日委員會に附議し同日原案の通可決し、補償金の配當に關する件は、同日委員會に附議し同月二十日原案の通可決したるを以て、同月二十一日内務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月二十四日認可、同日内務省告示第二百八十三號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第三百五十一號を以て、右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は、八月二十四日より八月三十一日迄に、東京市復興事業局第一出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は、所有地整理前四百九十四筆、整理後五百七十筆、借地整理前千七百三十七件、整理後千八百二十八件なり、土地権利者は、所有者整理前後共二百四十二人、借地權者整理前後共千二百八十七人なり。

土地各筆清算に際しては、整理前清算土地評定權利總指數より、私道及鐵道用地の特別處分指數を控除したる三千十一萬八千八百十三個を以て、換地の評定權利總指數より右特別處分指數を控除したる二千八百九十三萬二千四百一個を除したる比率〇・九六〇・六〇九を、整理前の各筆權利指數右特別處分に就ては整理前指數を以て清算したるに依り之を除きたるものに乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。換地處分の結果左の如し。

三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの
 一 換地を交付し清算を行はざりしもの

所有者	従前の土地		換地	
	區町丁目	地番	面積	區町丁目
東京市	芝區 芝口一丁目	一七ノ内	六・五 ^坪	芝區 芝口一丁目
同	同	共同物 揚場	一四・三	同
計			二〇七・七	
				三 河岸地
				同
				五・五 ^坪 共同物揚場
				一四・二五 同
				一九三・七一

二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘要
株式會社 土地會社	芝區 烏森町	一ノ九八	敷地	私道 敷地	五・五 ^坪	二・二六 ^四	一、八五・七〇	道路敷
同	同	一ノ二七	宅地	同	五・六〇	二・七三	一、九五・一〇	私道敷
伊達宗基	同 愛宕下町四丁目	一ノ二	道路	同	一六・三四	五五	三八八・五〇	道路敷
鐵道省	同 汐留町一丁目	一	鐵道 用地	同	一、七四・〇〇	二六〇・二六二	一八二、九七・四〇	

第二十四地區 甲 整地